

在宅介護実態調査の結果報告

沖縄市高齢者保健福祉計画・
第9期介護保険事業計画策定資料

目 次

I. 在宅介護実態調査について

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 本報告の構成	1
4. 報告書の見方	1
5. 調査結果より（国の分析項目を中心に掲載）	2
(1) 基本的な項目	2
(2) 施設等検討の状況	18
(3) 介護者が不安を感じる介護	20
(4) 介護者が不安を感じる介護（サービス利用回数別）	22
(5) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況	24
(6) 訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況	26
(7) 介護者が不安を感じる介護（就労継続見込み別）	27
(8) 介護保険サービスの利用	29
(9) サービス利用の組み合わせ（就労の状況別）	31
(10) 介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）	32
(11) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	34
(12) サービス利用の組み合わせ（要介護度別・世帯類型別）	37
(13) 施設等検討の状況（要介護度別・世帯類型別）	39
(14) 訪問診療の利用割合	41
(15) 訪問診療とサービスの利用有無の関係	42
(16) 新型コロナウイルス感染症の影響	44
【その他】	46

II. 在宅介護実態調査結果から見える課題のまとめ

まとめ1. 在宅介護の状況（介護者）	49
まとめ2. 介護者の就労と介護の状況	50
まとめ3. 介護をする上での困りごと、求められている生活支援	50
まとめ4. 施設入所の希望	51
まとめ5. 訪問診療や訪問看護等の利用	51
まとめ6. 新型コロナウイルス感染症の影響	52

I. 在宅介護実態調査について

1. 調査の目的

在宅で介護を受けている高齢者について、介護の実態や介護者の就労状況等を把握し、利用している介護サービスや要介護度、世帯構成などとの集計を行うことで、今後必要とされる支援内容や、介護者の介護離職防止を念頭に置いたサービス展開等を検討することを目的に調査を実施。

調査は国から示された調査票をもとに実施。調査件数は、国から各市町村 600 件程度実施することと示されている。(地域の実情に応じて調査数は設定する)

2. 調査の概要

調査実施期間：令和4年10月～令和5年6月

調査方法：調査員による配布・回収

調査対象者：在宅で生活をしている要支援・要介護を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける(受けた)方。

有効回答数：751件

調査内容：
・要介護者と介護者の状況
・介護者の就労状況
・行っている介護の内容
・就労と介護の継続について
・サービスの利用状況
・新型コロナウイルス感染症の影響
・施設入所の意向

3. 本報告の構成

本報告では、在宅介護実態調査の集計結果より、主な分析項目を全国(令和2年版「在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)【10万人以上30万人未満】)と比較しながら、市の状況把握を行っている。

4. 報告書の見方

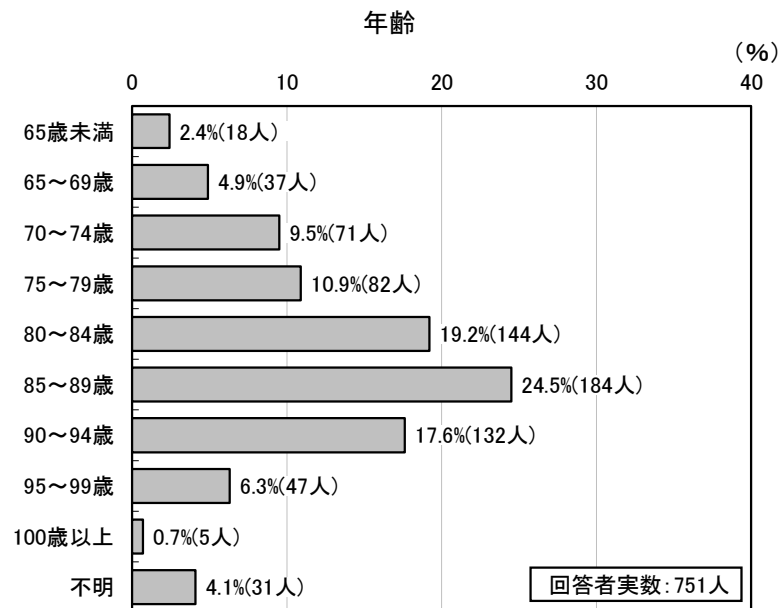
- グラフ中の「%」は小数点第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問(1つだけに○をつけるもの)であっても合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるもの)は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、文字数が多い場合は要約して記載する場合があります。

5. 調査結果より（国の分析項目を中心に掲載）

(1) 基本的な項目

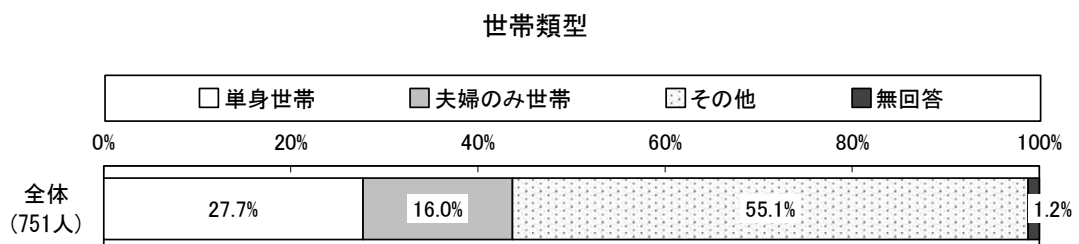
① 年齢

本調査回答者（介護を受けている方）の年齢は、「85～89歳」が24.5%、「80～84歳」が19.2%で、他の年齢層より高い。これらを合わせると、80代が43.7%を占める。また、90代以上も合わせると68.3%となる。在宅生活を送る要介護者の約7割が80歳以上であることがわかる。



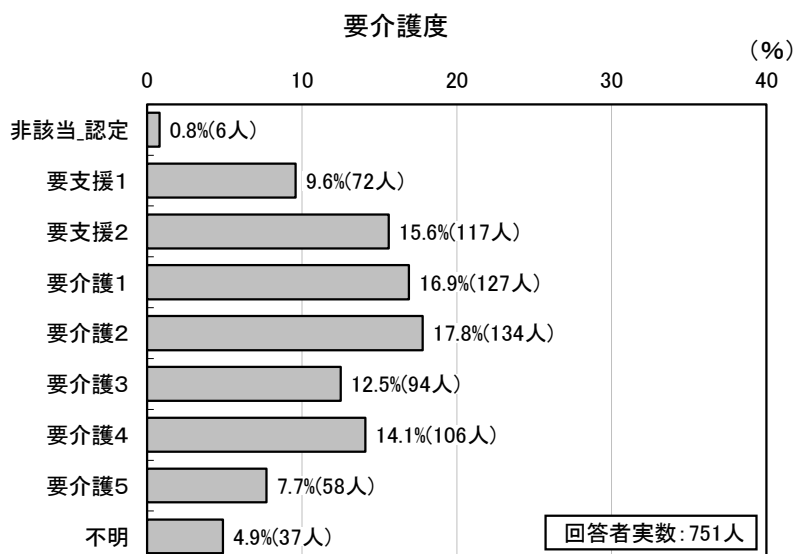
② 世帯類型

在宅介護を受けている高齢者の世帯構成を見ると、三世同居等に該当する「その他」が55.1%と最も高く、次いで「単身世帯」が27.7%、「夫婦のみ世帯」が16.0%となっている。



③要介護度

在宅介護者の要介護度を見ると、「要介護2」が17.8%と最も高く、「要介護1」が16.9%、「要支援2」が15.6%でこれに次いでいる。また、要介護3以上の中重度者は、34.3%である。

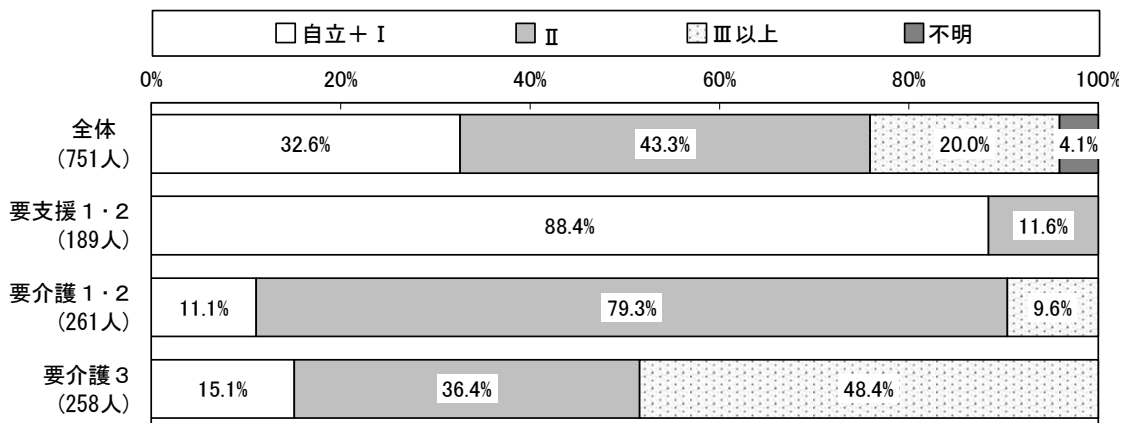


④認知高齢者自立度

在宅要介護者の認知自立度を見ると、「Ⅱ」が43.3%で最も高く、次いで「自立+Ⅰ」が32.6%となっている。

要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「自立+Ⅰ」が88.4%で大半を占めている。しかし、「要介護1・2」になると「Ⅱ」が79.3%を占め、「要介護3以上」では「Ⅲ以上」が48.4%で最も高い。要介護3以上では、日常生活に支障を来たす症状・行動で困難さが見られ、介護を必要とする人が非常に多くなることがわかる。

要介護度別・認知高齢者自立度

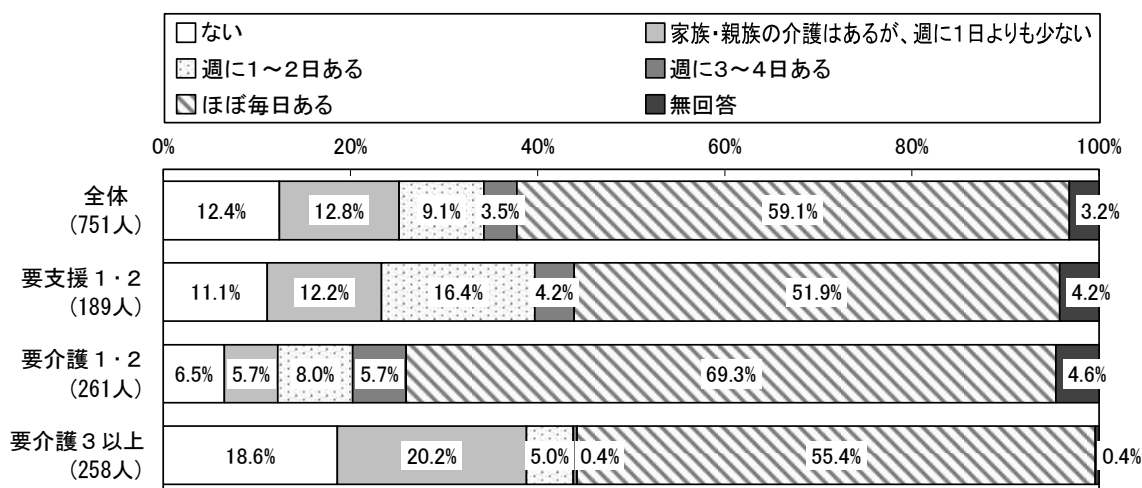


⑤家族による介護の頻度

家族介護による介護の頻度を見ると、「ほぼ毎日」が 59.1%であり、日常的に介護を行っている割合が非常に高い。

要介護度別に見ると、要介護 1・2 の介護度の方が「ほぼ毎日」と答えた割合が高くなっている。

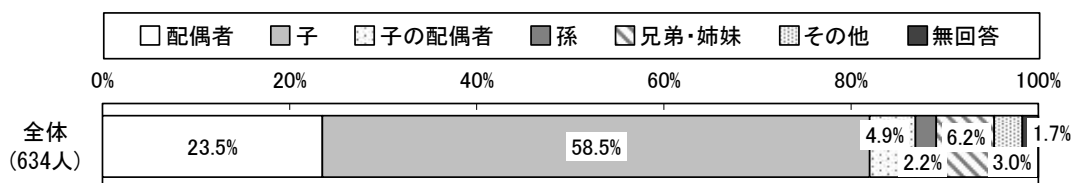
要介護度別・家族による介護の頻度



⑥主な介護者

主な介護者は、「子」が 58.5%と最も高く、次いで「配偶者」が 23.5%、「兄弟・姉妹」が 6.2%、「子の配偶者」が 4.9%となっている。

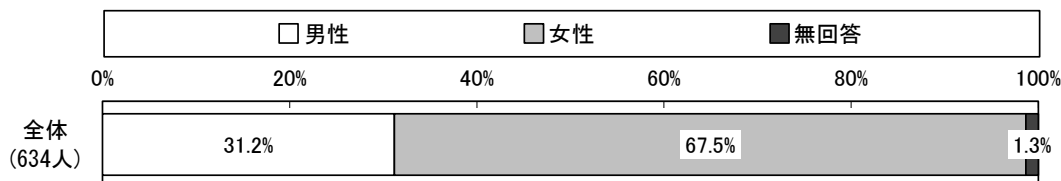
主な介護者



⑦主な介護者の性別

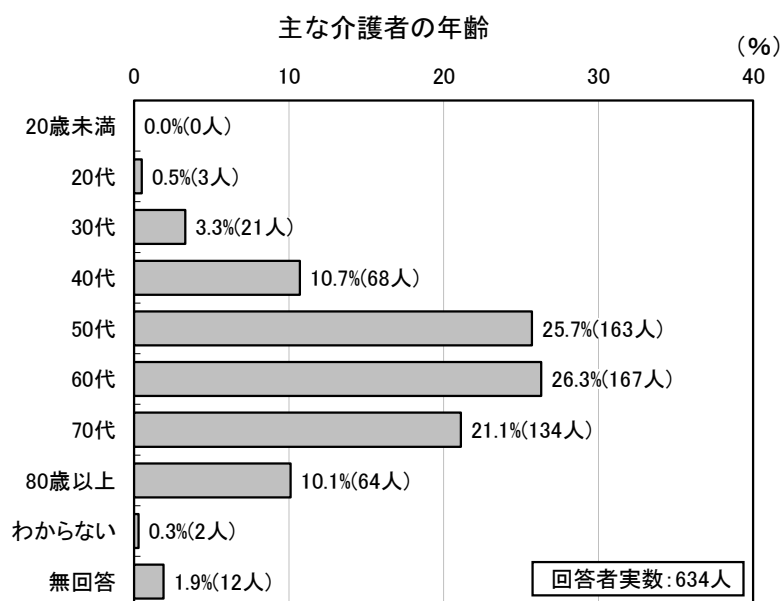
主な介護者の性別は、「女性」が 67.5%と 6 割を超え、「男性」が 31.2%となっている。

主な介護者の性別



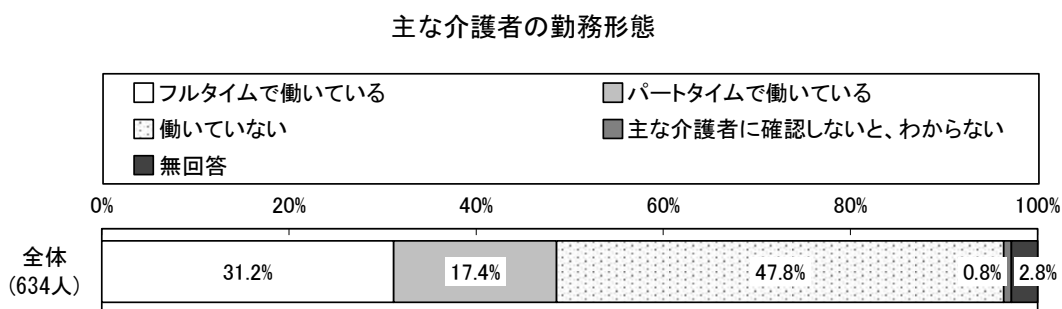
⑧主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が最も高く 26.3%、次いで「50代」の 25.7%となっている。これら2つの年代を合わせると5割を占める。



⑨主な介護者の勤務形態

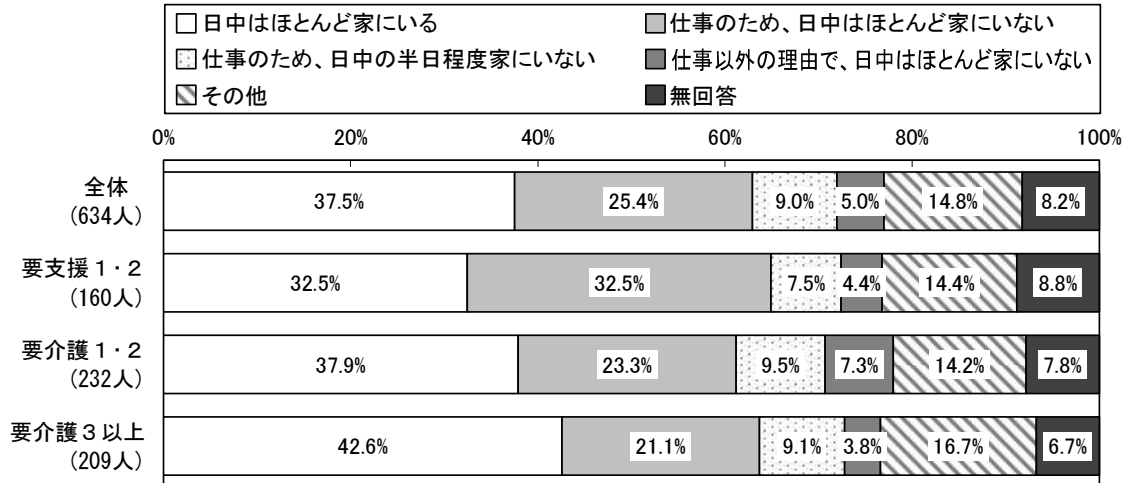
主な介護者の勤務形態を見ると、「働いていない」が 47.8%で最も高い。次いで「フルタイムで働いている」が 31.2%、「パートタイムで働いている」が 17.4%であり、働いている介護者は 48.6%となっている。



⑩介護者は日中、在宅しているか

介護者の日中の在宅状況を見ると、「日中はほとんど家にいる」が 37.5%で最も高いものの「家にはいない」も 39.4%あり、特に「仕事のため、日中はほとんど家にはいない」は 25.4%であった。

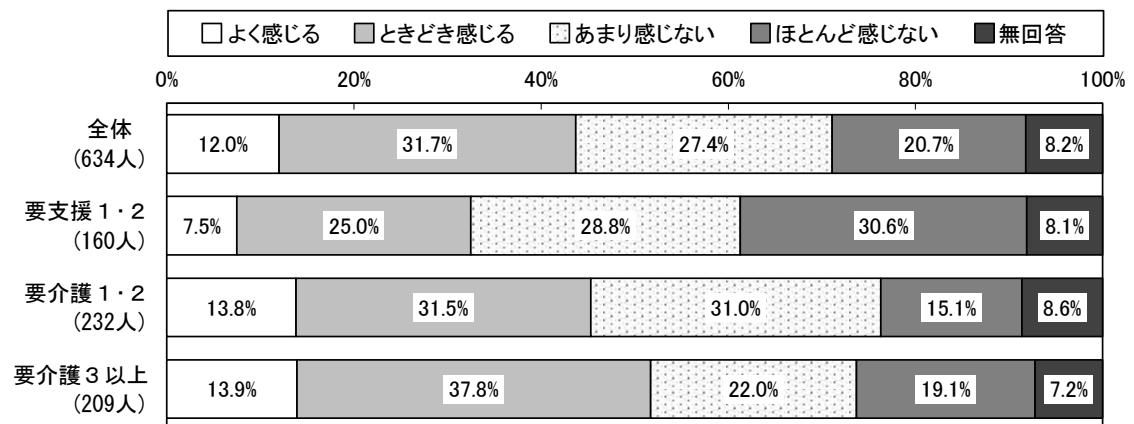
要介護度別・介護者は日中、在宅しているか



⑪介護者の孤独感

介護者の孤独感について見ると、「ときどき感じる」が 31.7%で比較的高い。「よく感じる」と合わせると、孤独感がある介護者は 43.7%となる。また、要介護度別に見ると、孤独感がある介護者は、要介護 1・2 で 45.3%、要介護 3 以上は 51.7%であり、要支援者の 32.5%に比べて高い。

要介護度別・介護者の孤独感

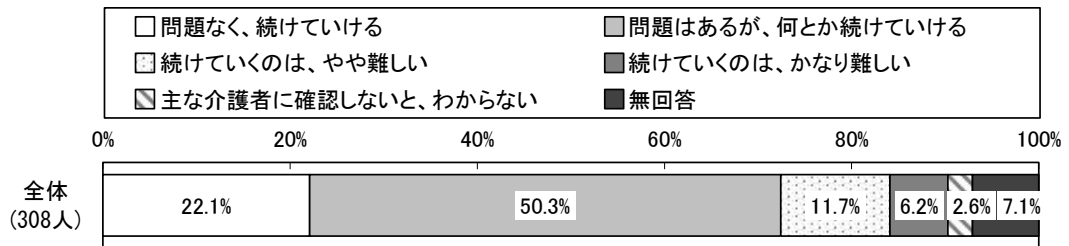


⑫ 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の意識を尋ねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が50.3%で半数を占めている。「問題なく、続けていける」は22.1%であり、これら2つを合わせると、継続できるという回答が72.4%となっている。

そのほか、「続けていくのは、やや難しい」が11.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が6.2%であり、就労継続が困難と考えている介護者は17.9%となっている。

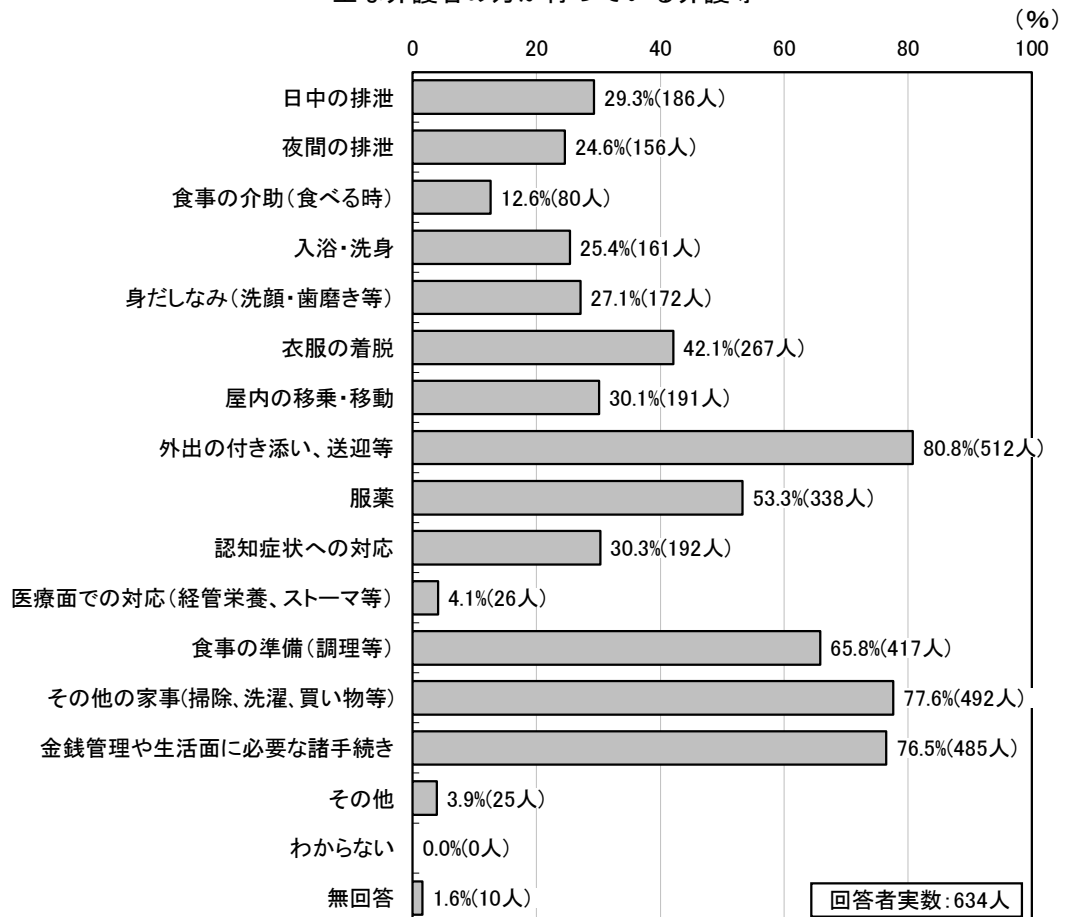
主な介護者の就労継続の可否に係る意識



⑬ 主な介護者の方が行っている介護等

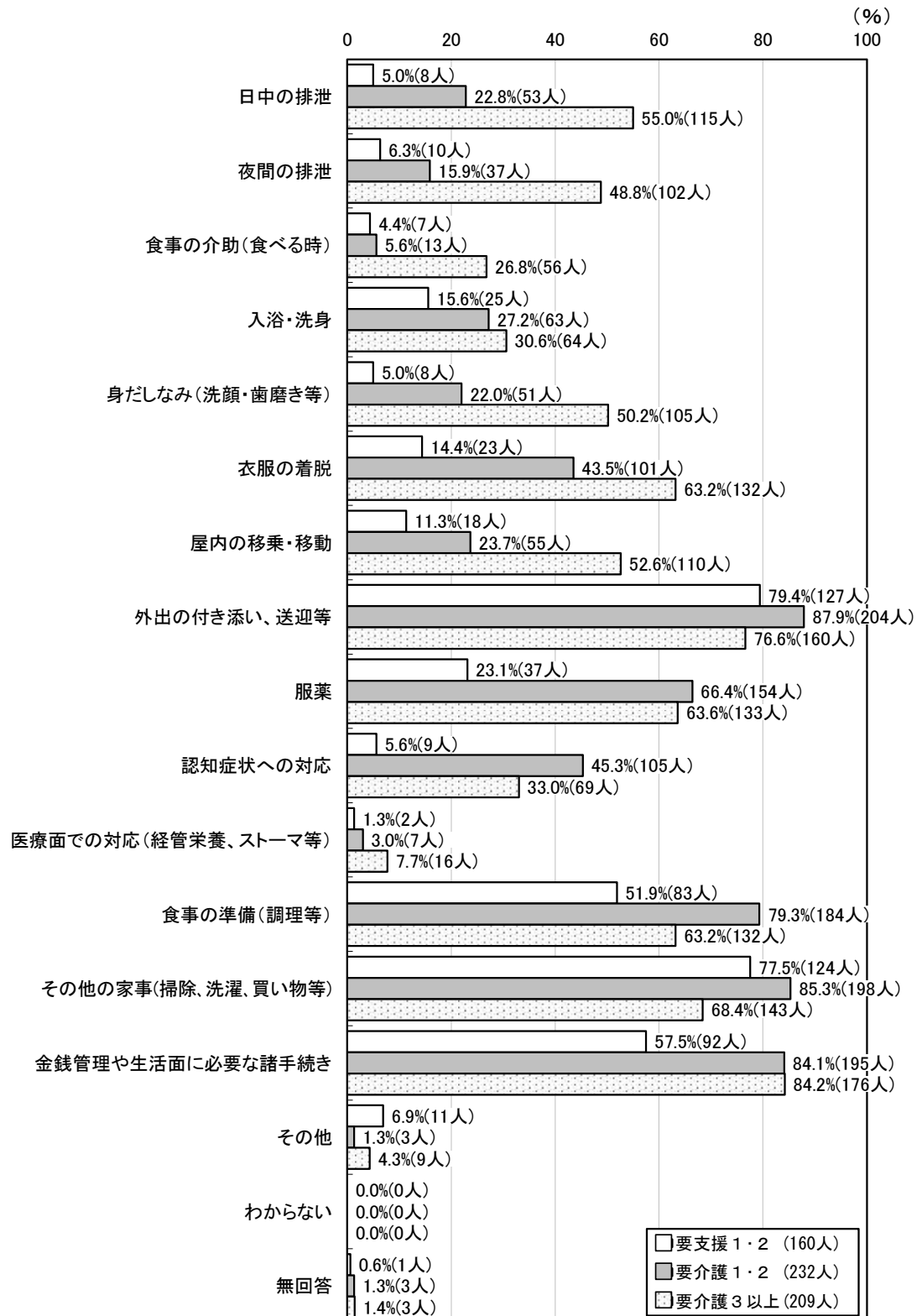
主な介護者が行っている介護としては、「外出の付き添い、送迎等」が80.8%で最も高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が77.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が76.5%、「食事の準備(調理等)」が65.8%となっている。

主な介護者の方が行っている介護等



要介護度別に見ると、各要介護度とも先に示した「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「食事の準備(調理等)」が高いが、要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣類の着脱」、「屋内の移乗・移動」がほかの介護度よりも非常に高くなっている。

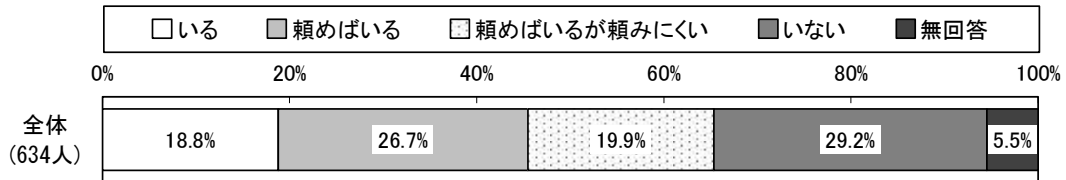
要介護度別・主な介護者の方が行っている介護等



⑭あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人

あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人については、「いない」が 29.2%と最も高く、次いで「頼めばいる」が 26.7%、「頼めばいるが頼みにくい」が 19.9%、「いる」が 18.8%となっている。

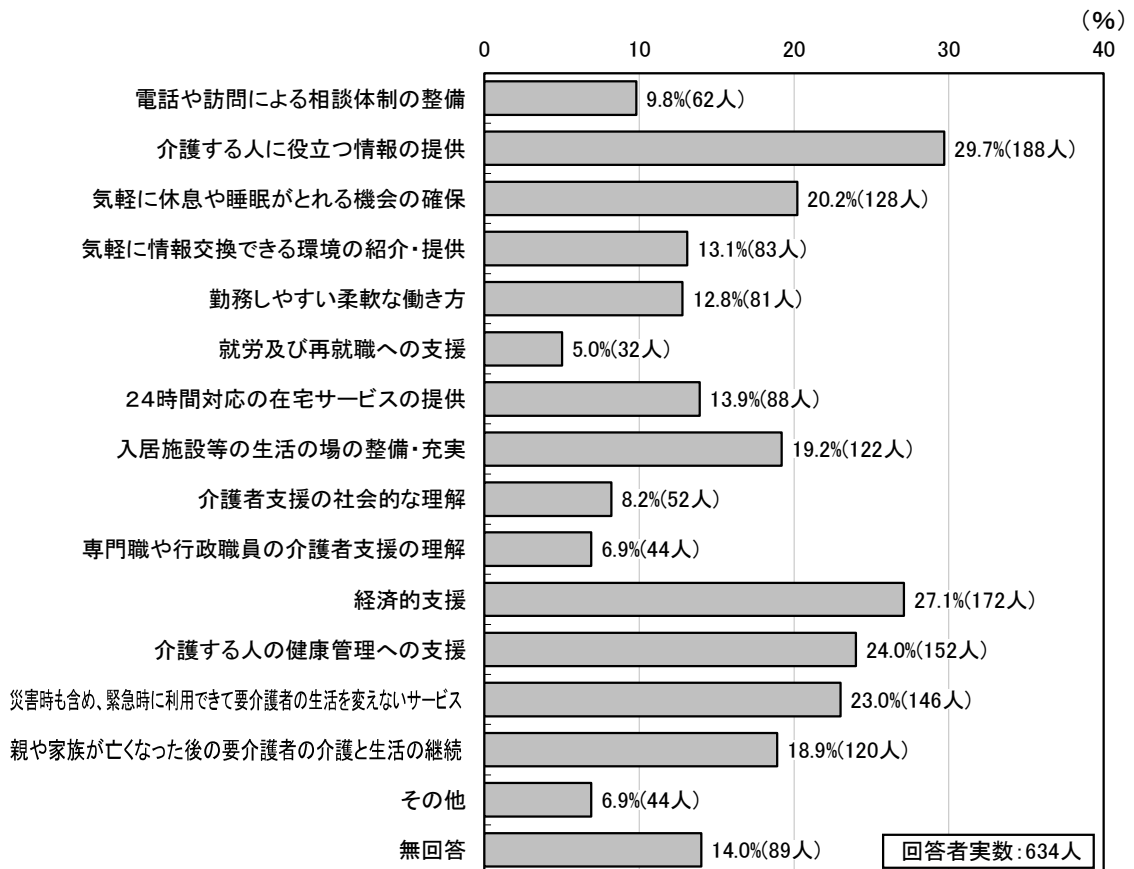
あなたに代わって要介護者の介護を担ってくれる人



⑮介護する人ご自身に必要なと思われる支援

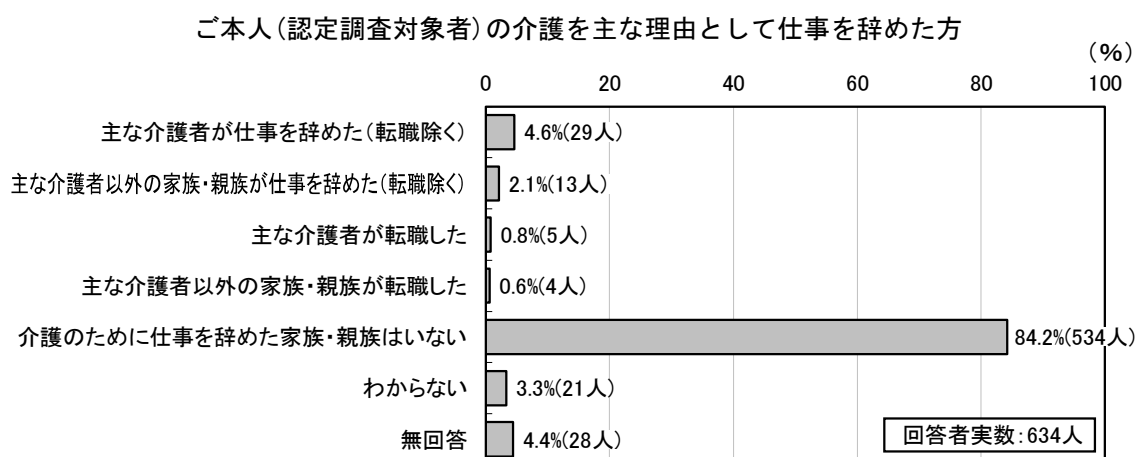
介護する人ご自身に必要なと思われる支援は、「介護する人に役立つ情報の提供」が 29.7%と最も高く、次いで「経済的支援」が 27.1%、「介護する人の健康管理への支援」が 24.0%、「災害時も含め、緊急時に利用できて要介護者の生活を変えないサービス」が 23.0%、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」が 20.2%となっており、以上の5項目が 20%を超えている。

介護する人ご自身に必要なと思われる支援



⑩ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として仕事を辞めた方

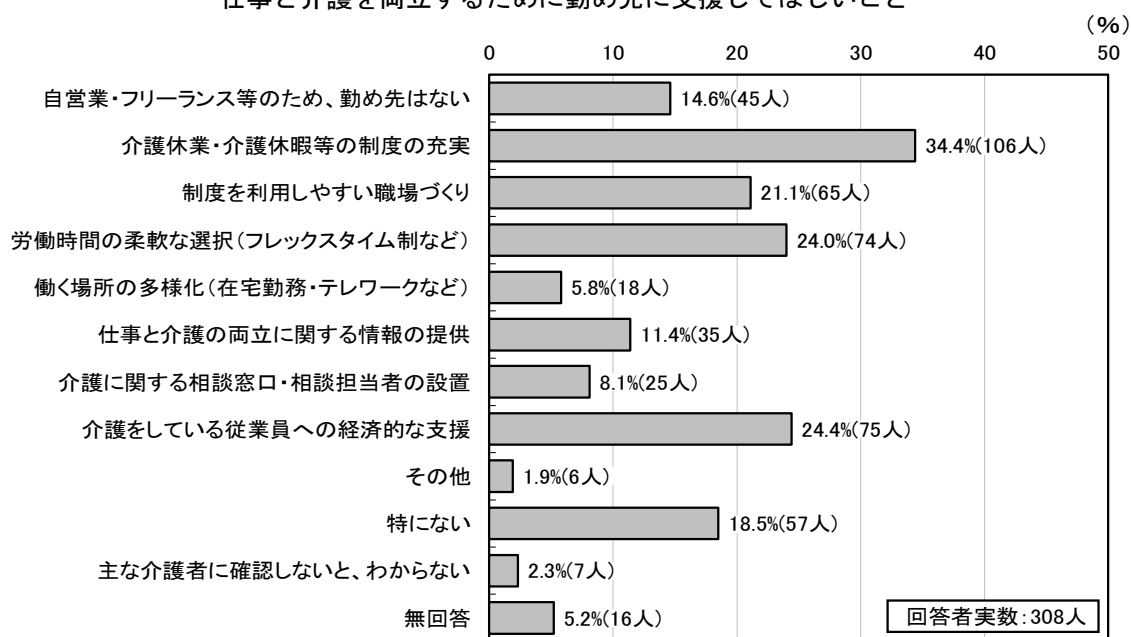
介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた又は転職した方はいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が84.2%と圧倒的に高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が4.6%、「わからない」が3.3%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)」が2.1%となっている。



⑰仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこととしては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が高くなっている。仕事と介護の両立が難しいという人では、上記のほかに「介護をしている従業員への経済的な支援」を望む割合が、両立に問題ないという人より高くなっている。

仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと



今後の介護の状況別・仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

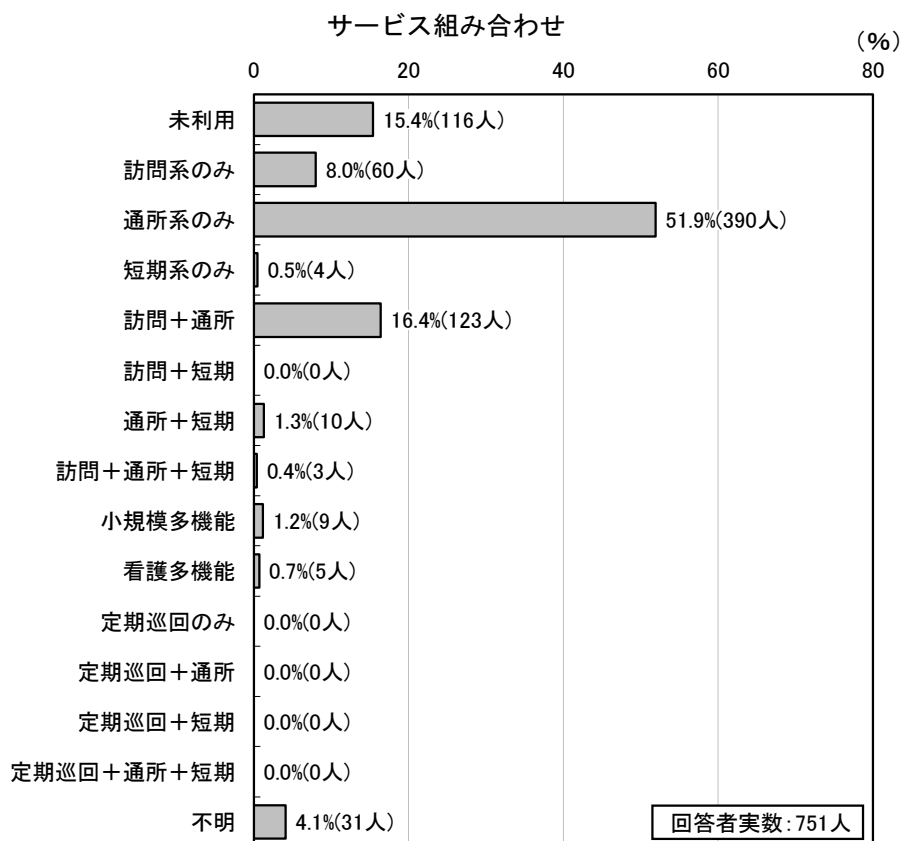
	回答者実数	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	仕事と介護の両立に関する情報の提供
問題なく、続けていける	68人	13.2% (9人)	26.5% (18人)	25.0% (17人)	17.6% (12人)	1.5% (1人)	8.8% (6人)
問題はあるが、何とか続けていける	155人	13.5% (21人)	44.5% (69人)	25.8% (40人)	29.7% (46人)	7.7% (12人)	14.8% (23人)
続けていくのは、やや難しい	36人	13.9% (5人)	30.6% (11人)	8.3% (3人)	30.6% (11人)	13.9% (5人)	8.3% (3人)
続けていくのは、かなり難しい	19人	42.1% (8人)	31.6% (6人)	10.5% (2人)	10.5% (2人)	0.0% (0人)	15.8% (3人)
主な介護者に確認しないと、わからない	8人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

	回答者実数	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特にない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
問題なく、続けていける	68人	4.4% (3人)	16.2% (11人)	1.5% (1人)	30.9% (21人)	0.0% (0人)	2.9% (2人)
問題はあるが、何とか続けていける	155人	10.3% (16人)	31.0% (48人)	1.3% (2人)	14.8% (23人)	0.6% (1人)	1.9% (3人)
続けていくのは、やや難しい	36人	13.9% (5人)	22.2% (8人)	8.3% (3人)	13.9% (5人)	0.0% (0人)	5.6% (2人)
続けていくのは、かなり難しい	19人	5.3% (1人)	36.8% (7人)	0.0% (0人)	5.3% (1人)	5.3% (1人)	0.0% (0人)
主な介護者に確認しないと、わからない	8人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	37.5% (3人)	37.5% (3人)	12.5% (1人)

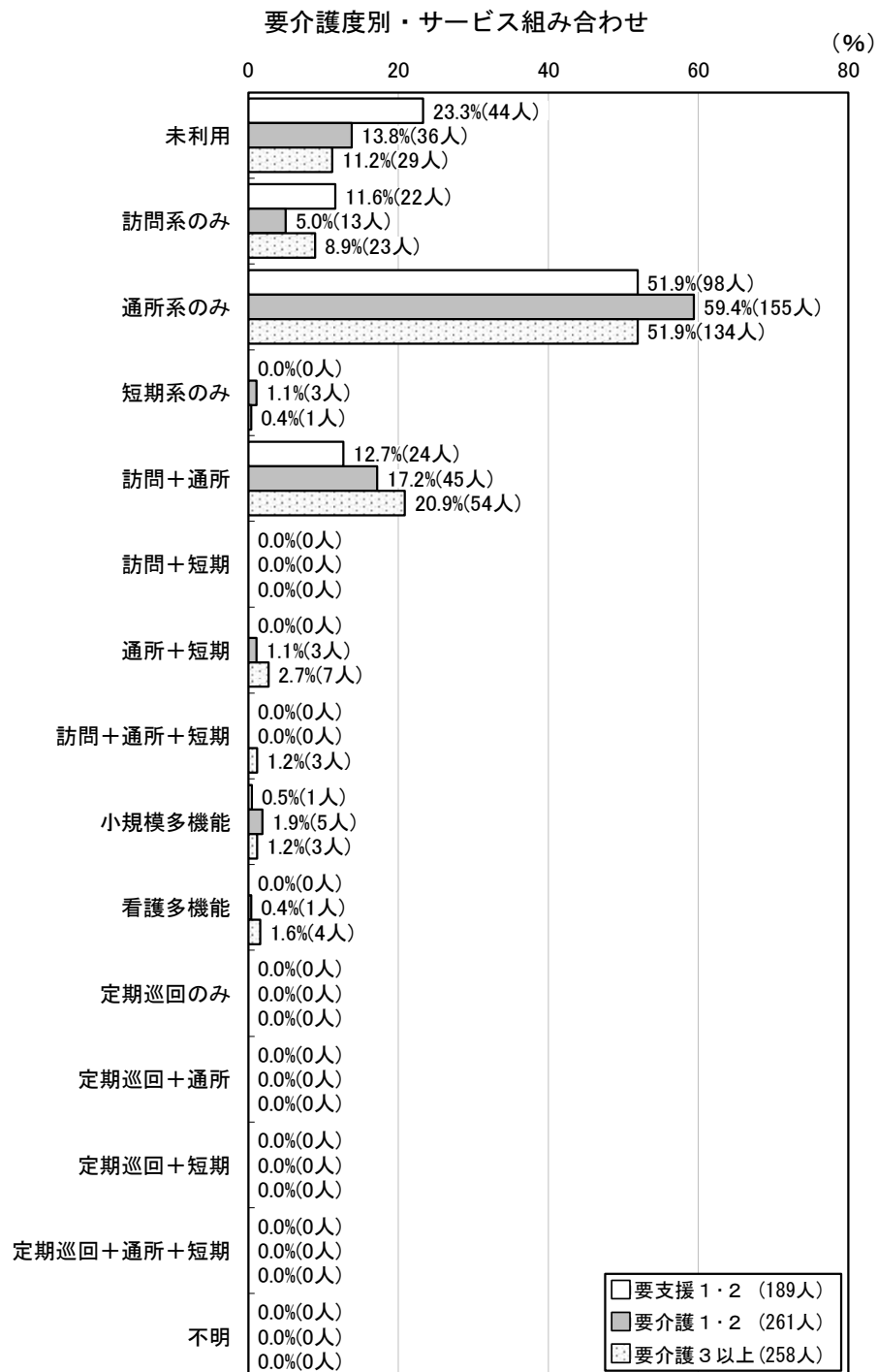
⑱サービスの組み合わせ

介護サービス利用の組み合わせについて見ると、「通所系のみ」が 51.9%で最も高く、次いで、「訪問+通所」が 16.4%、「未利用」（住宅改修や福祉用具利用は除く）が 15.4%あり、その他の組み合わせは 10%未満にとどまっている。

また、「訪問系のみ」が 8.0%あり、通所系より訪問系サービスの利用率が非常に低い。

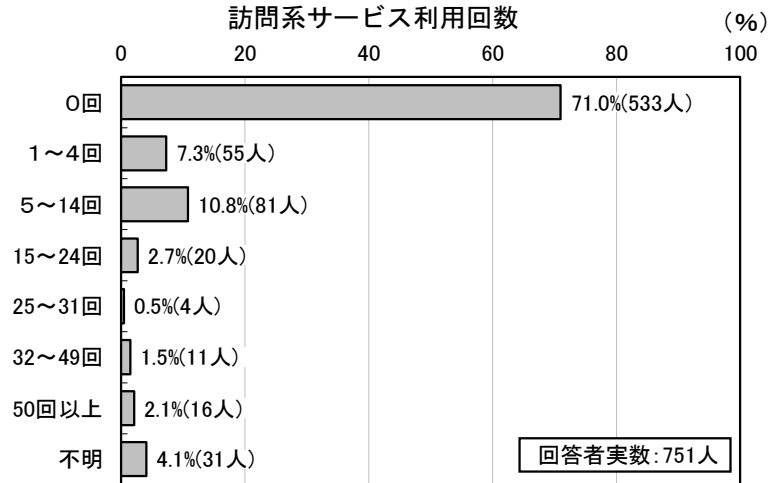


要介護度別に見ると、「通所系のみ」は要介護1・2が高く59.4%、要支援1・2と要介護3以上では51.9%となっている。「未利用」は要支援1・2で高く23.3%、要介護1・2と要介護3以上では1割程度となっている。

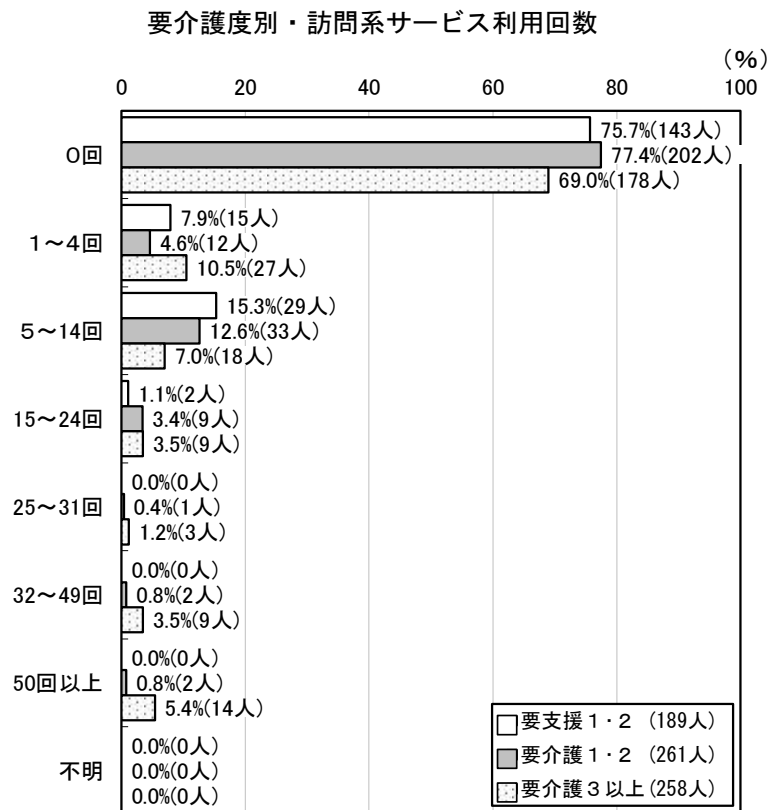


⑱訪問系サービス利用回数

訪問系サービスの利用回数を見ると、「0回」が71.0%で圧倒的に高い。そのほか、「1～4回」が7.3%、「5～14回」が10.8%であり、15回以上の利用は6.8%にとどまっている。

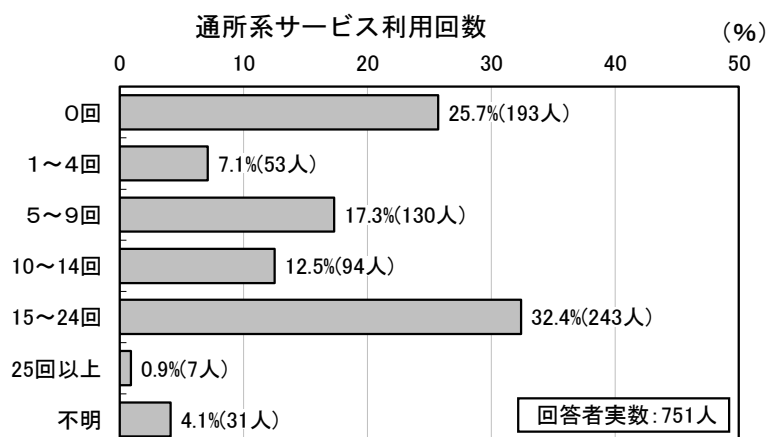


要介護度別に見ると、「0回」は要支援1・2と要介護1・2で高く7割半ば、と要介護3以上では69.0%となっている。25回以上利用している人は要介護3以上が高くなっている。

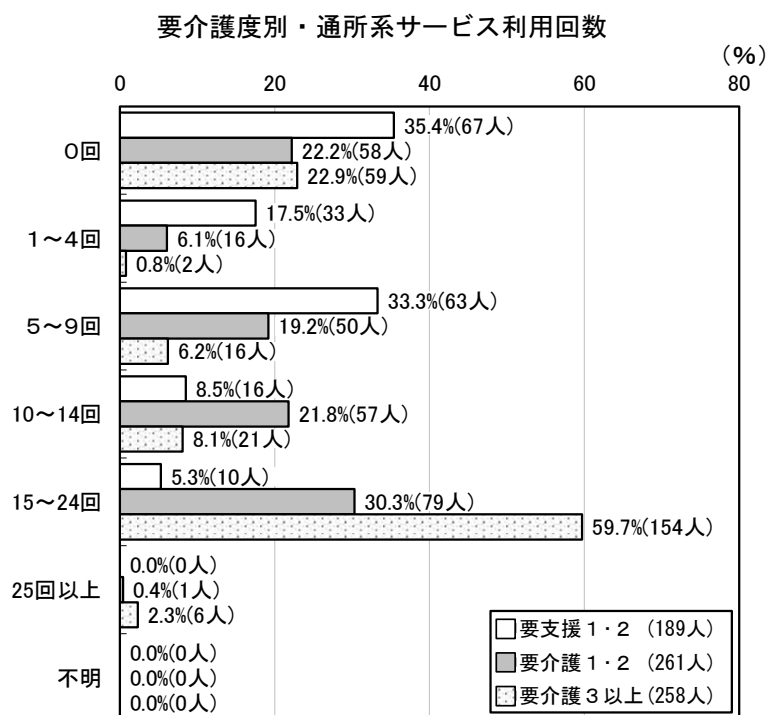


⑳通所系サービス利用回数

通所系サービスの利用回数を見ると、「15～24回」が32.4%で最も高い。次いで「0回」が25.7%、「5～9回」が17.3%、「10～14回」が12.5%となっている。



通所系サービスの利用回数を要介護度別に見ると、「0回」、「1～4回」、「5～9回」は要支援1・2で高いが、「15～24回」では要介護3以上が59.7%と非常に高くなっている。中重度の要介護者では、通所系サービスを毎日のように利用する傾向であることがわかる。

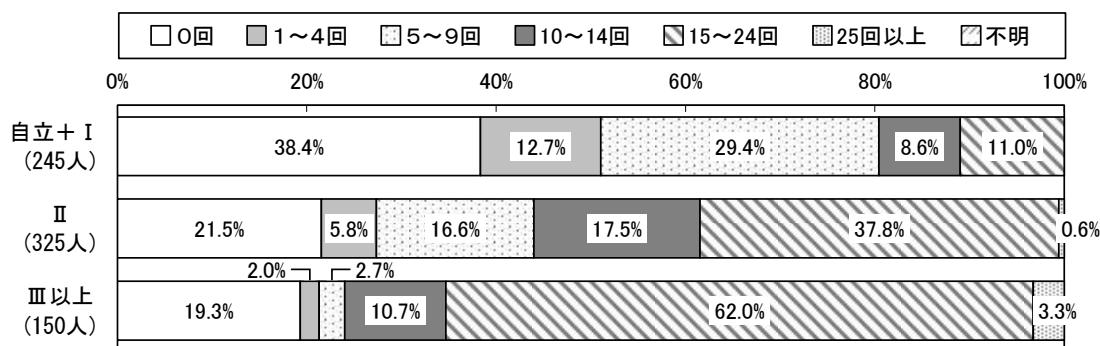


通所系サービスの頻回な利用(15回以上)はどのような人で多くなっているのか見ると、

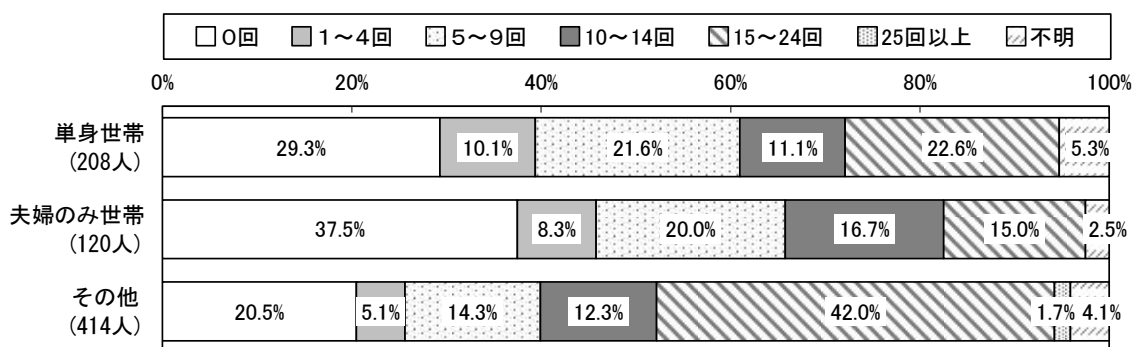
- ・ 要介護度：要介護3以上（62.0%）
- ・ 認知高齢者自立度：Ⅲ以上（日常生活上困難さが見られる）（65.3%）
- ・ 世帯類型：その他世帯（三世代世帯等）（43.7%）
- ・ 施設入所希望：すでに入所・入居申し込みをしている（70.0%）
- ・ 施設入所希望理由：日中働いているため、介助などの世話が大変（44.0%）

このような傾向が見られた。特に重度の要介護者、認知症状の重度者で頻回な利用が見られた。

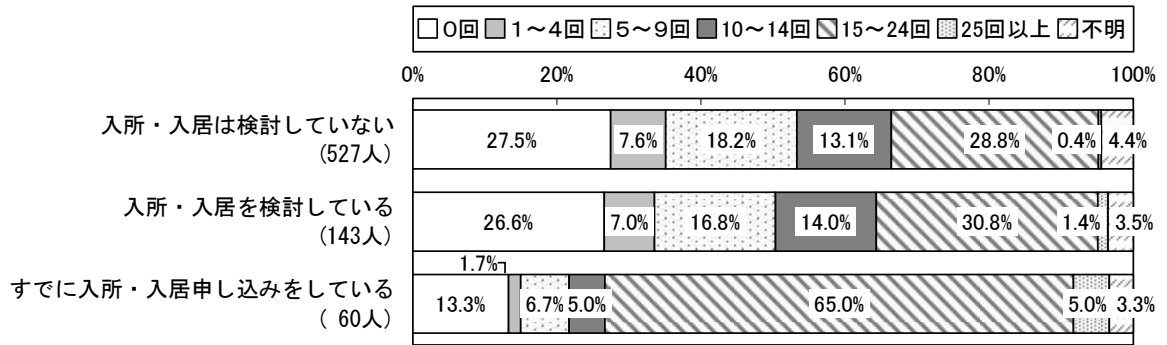
認知症高齢者自立度別・通所系サービス利用回数



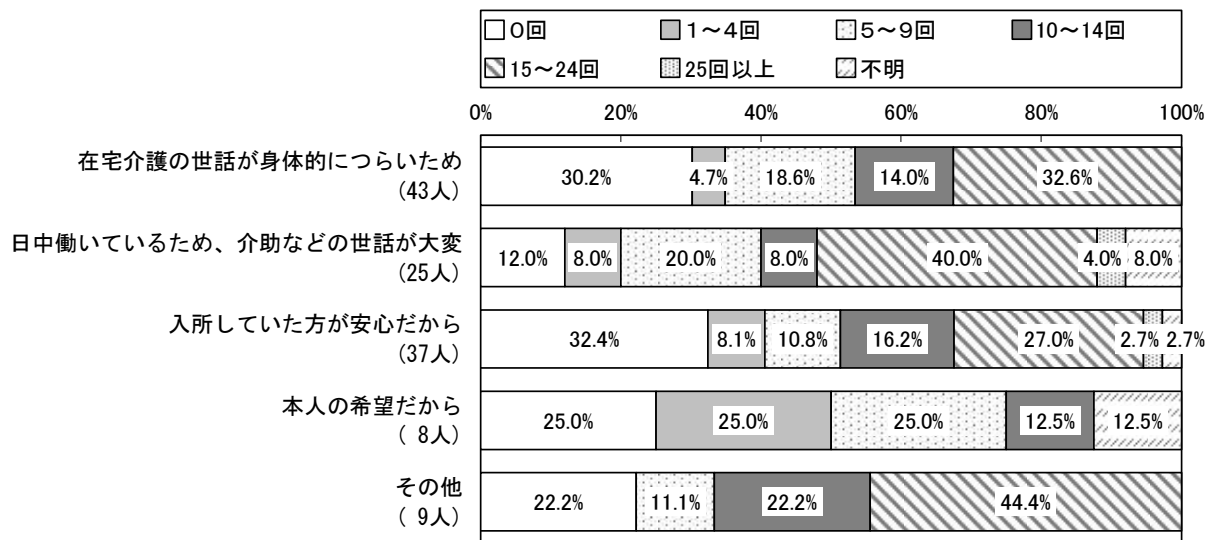
世帯類型別・通所系サービス利用回数



施設等検討の状況別・通所系サービス利用回数



施設等に入所・入居の検討理由別・通所系サービス利用回数



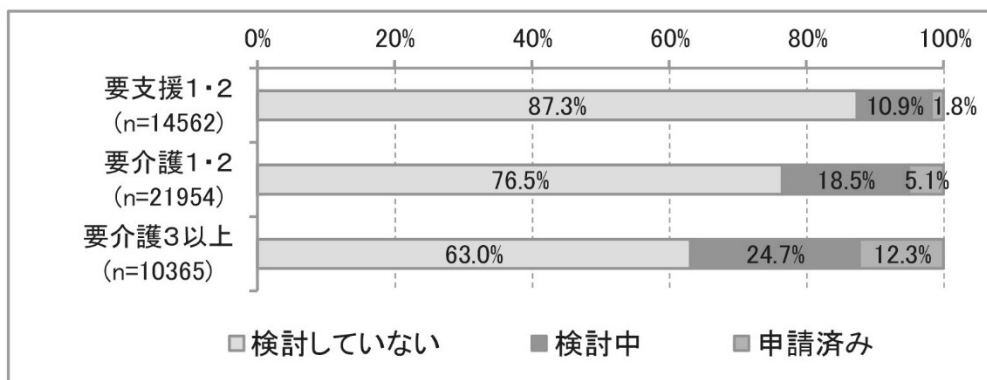
(2) 施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より)

◎「施設等に申請済み」の割合は、要介護3以上で12.3%

- ・全国の要介護度別の「施設等検討の状況」を見ると、要介護3以上では要介護度の重度化に伴い「申請済み」の割合が高くなっており、12.3%となっている。
- ・なお、「検討していない」の割合の減少幅は、要支援1・2(87.3%)から要介護1・2(76.5%)になる段階で▲10.8ポイント、要介護1・2から要介護3以上(63.0%)になる段階で▲13.5ポイントと大きくなっている。

要介護度別・施設等検討の状況

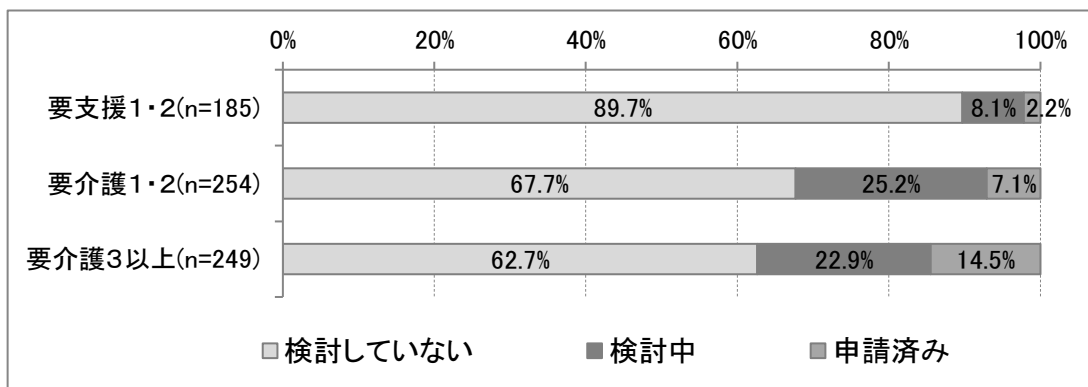


②-1 市の調査結果では……

市の要介護度別の「施設等検討の状況」では、要介護3以上では「申請済み」が14.5%となっている。

「検討していない」については、要支援1・2や要介護3以上では全国と同程度の割合ですが、要介護1・2は67.7%で、全国の76.5%を下回っている。

要介護度別・施設等検討の状況

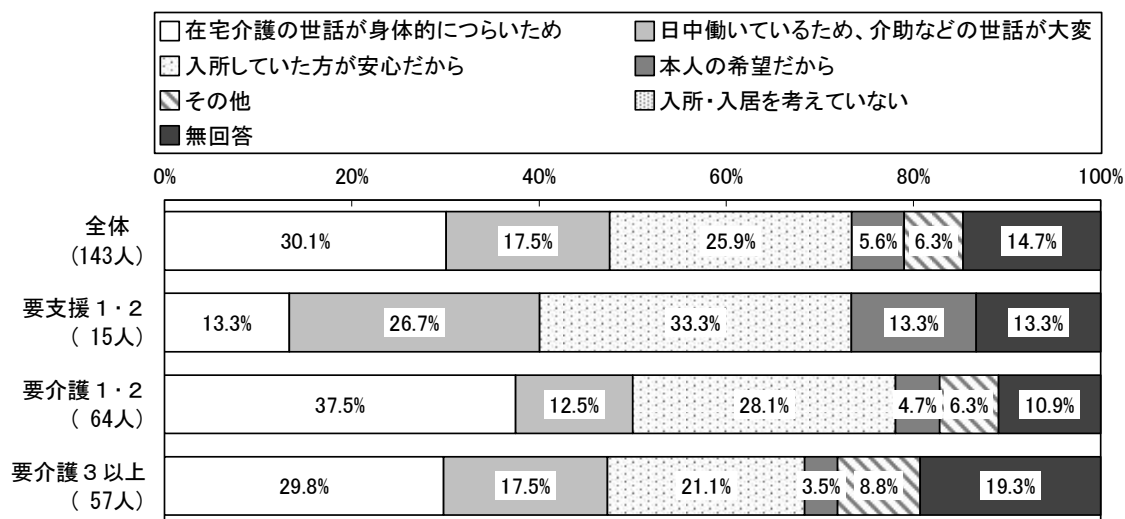


②-2 施設等検討理由（市の調査結果）

施設入所の検討理由を見ると、最も高いのは「在宅介護の世話が身体的につらいため」が30.1%、次いで「入所していた方が安心だから」が25.9%となっている。

要介護度別に見ると、要支援1・2は「入所していた方が安心だから」が33.3%で高い。要介護1・2と要介護3以上では「在宅介護の世話が身体的につらいため」が他の項目より高くなっている。

要介護度別・施設等検討の理由

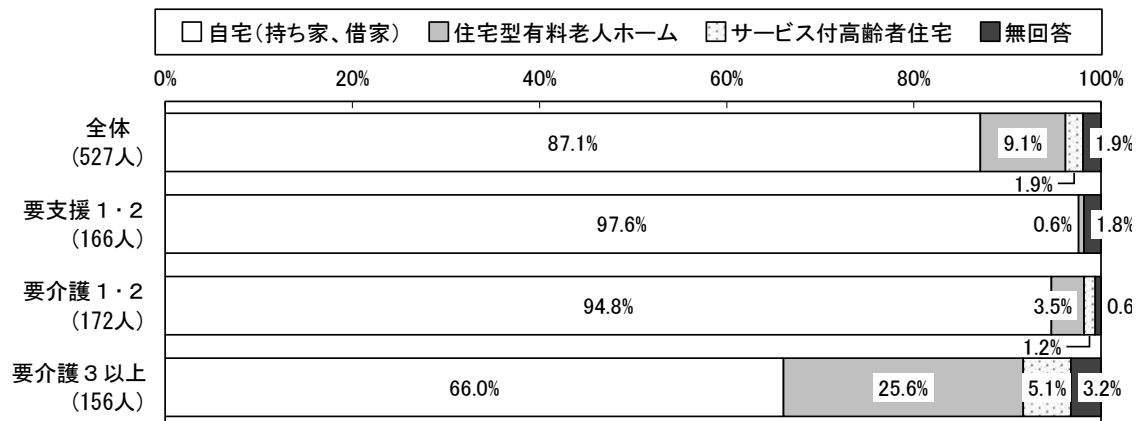


②-3 現在の住まい（市の調査結果）

現在の住まいについては、「自宅(持ち家、借家)」が87.1%と最も高く、次いで「住宅型有料老人ホーム」が9.1%、「サービス付高齢者住宅」が1.9%となっている。

要介護度別に見ると、要支援1・2と要介護1・2は「自宅(持ち家、借家)」が圧倒的に高く90%を超えるが、要介護3以上では「自宅(持ち家、借家)」は66.0%と低くなり、「住宅型有料老人ホーム」が25.6%と、他の介護度に比べ高くなっている。

要介護度別・現在の住まい



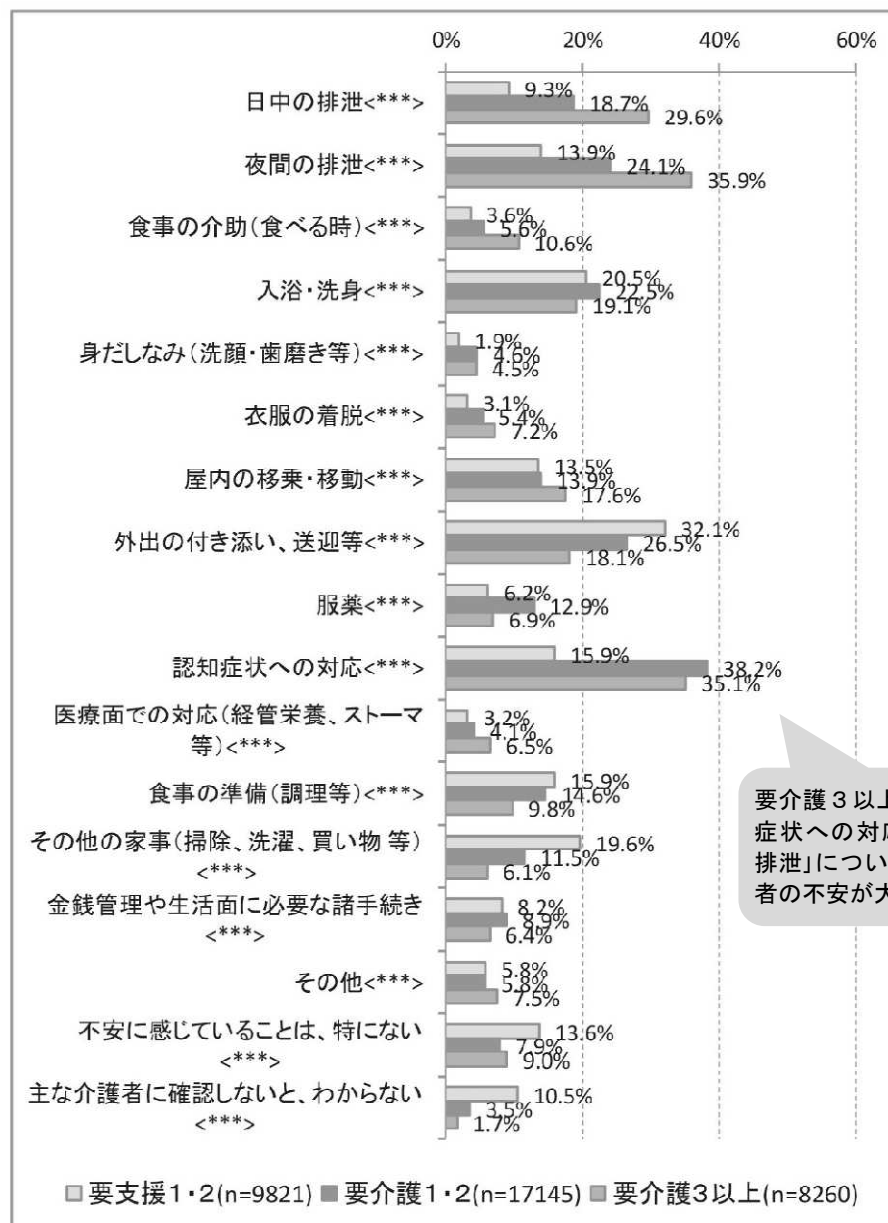
(3) 介護者が不安に感じる介護

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎主な介護者が不安を感じる介護は、要介護3以上では「夜間の排泄」「認知症状への対応」

- ・「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護」について、要介護3以上では、特に「夜間の排泄」と「認知症状への対応」で、主な介護者の不安が大きい傾向となっている。
- ・したがって、要介護3以上では、主な介護者が「在宅生活の継続が困難」と判断する特に重要なポイントとして、「(夜間の)排泄」と「認知症」の2点が挙げられると考えられる。
- ・また「認知症状への対応」については、要介護1・2でも特に不安と感じている。

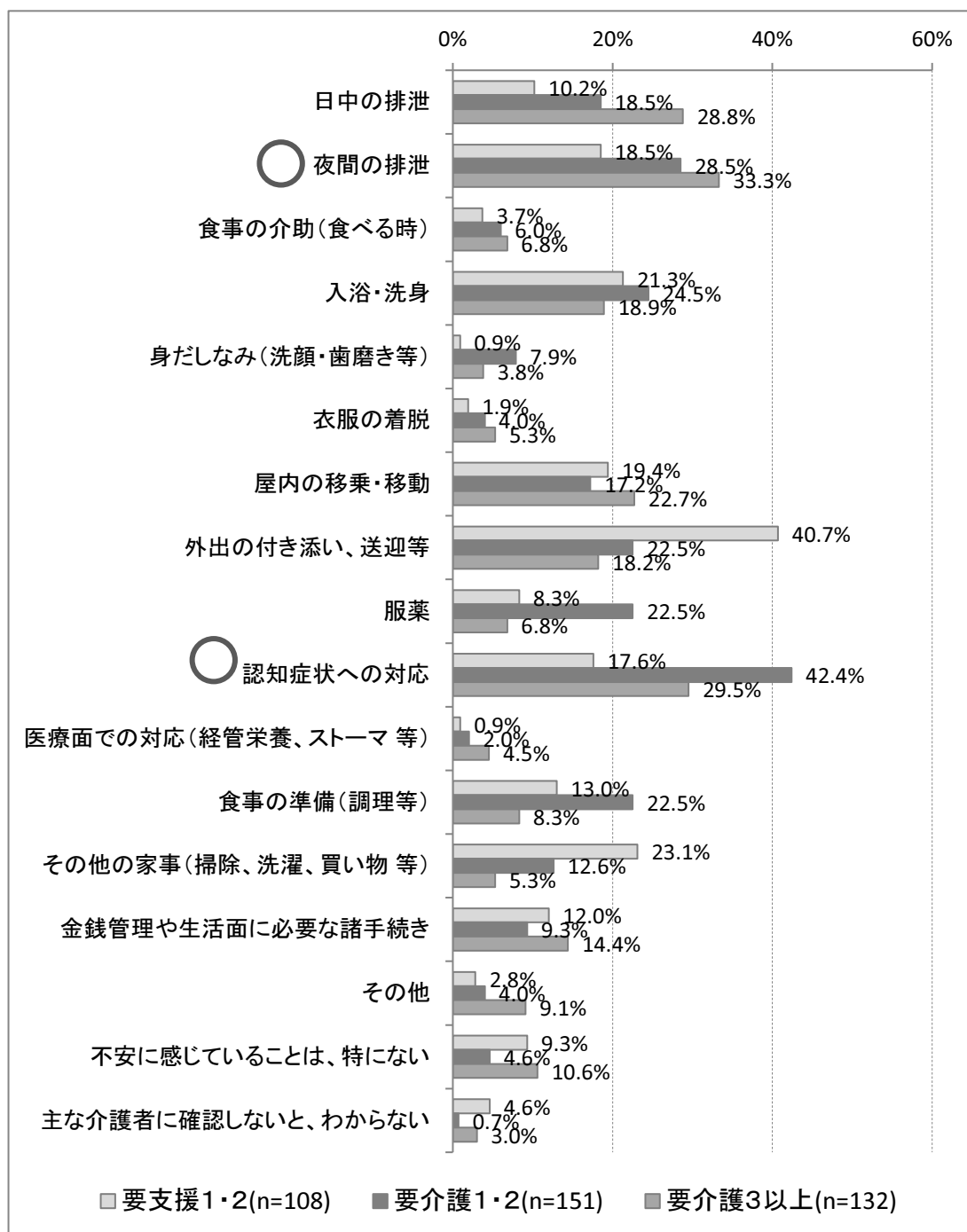
要介護度別・介護者が不安に感じる介護



②市の調査結果では……

市では、要介護3以上については「夜間の排泄」が33.3%で最も高いほか、「認知症状への対応」、「日中の排泄」がこれに次いで高い。また、要介護1・2では「認知症状への対応」が42.4%で最も高く、次いで「夜間の排泄」は28.5%となっている。在宅介護において、要介護3以上を抱える家庭だけではなく、要介護1・2を抱える家庭でも、介護において認知症や夜間の排泄等で不安を抱えていることがわかる。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護

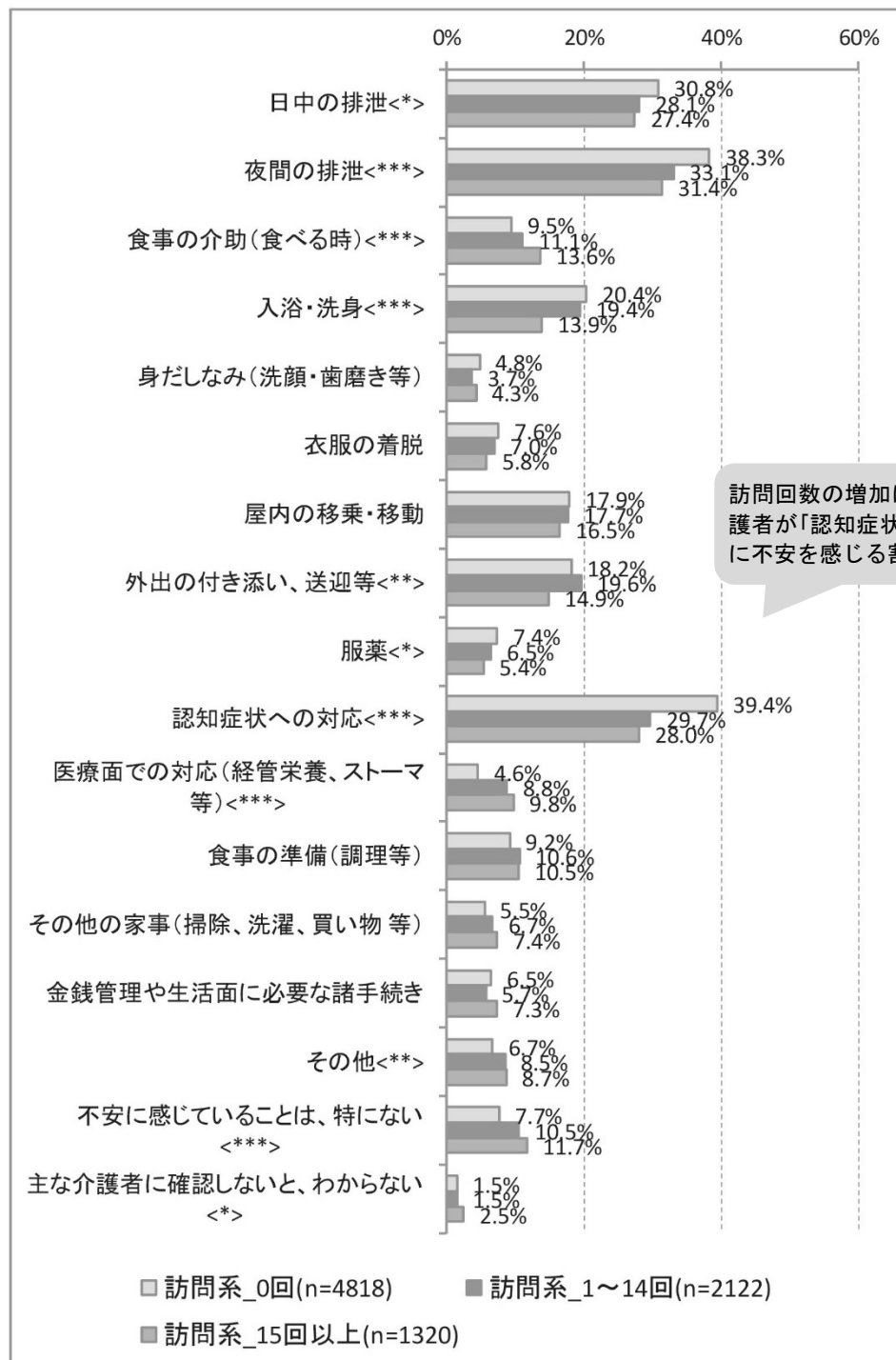


(4) 介護者が不安を感じる介護（サービス利用回数別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎「訪問回数の増加」に伴い、介護者の「認知症状への対応」「夜間の排泄」の不安が軽減
 ・「介護者が不安を感じる介護」と「訪問系サービスの利用回数」の関係を見ると、訪問系サービスの利用回数の増加とともに、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」について、介護者の不安が軽減する傾向がみられた。

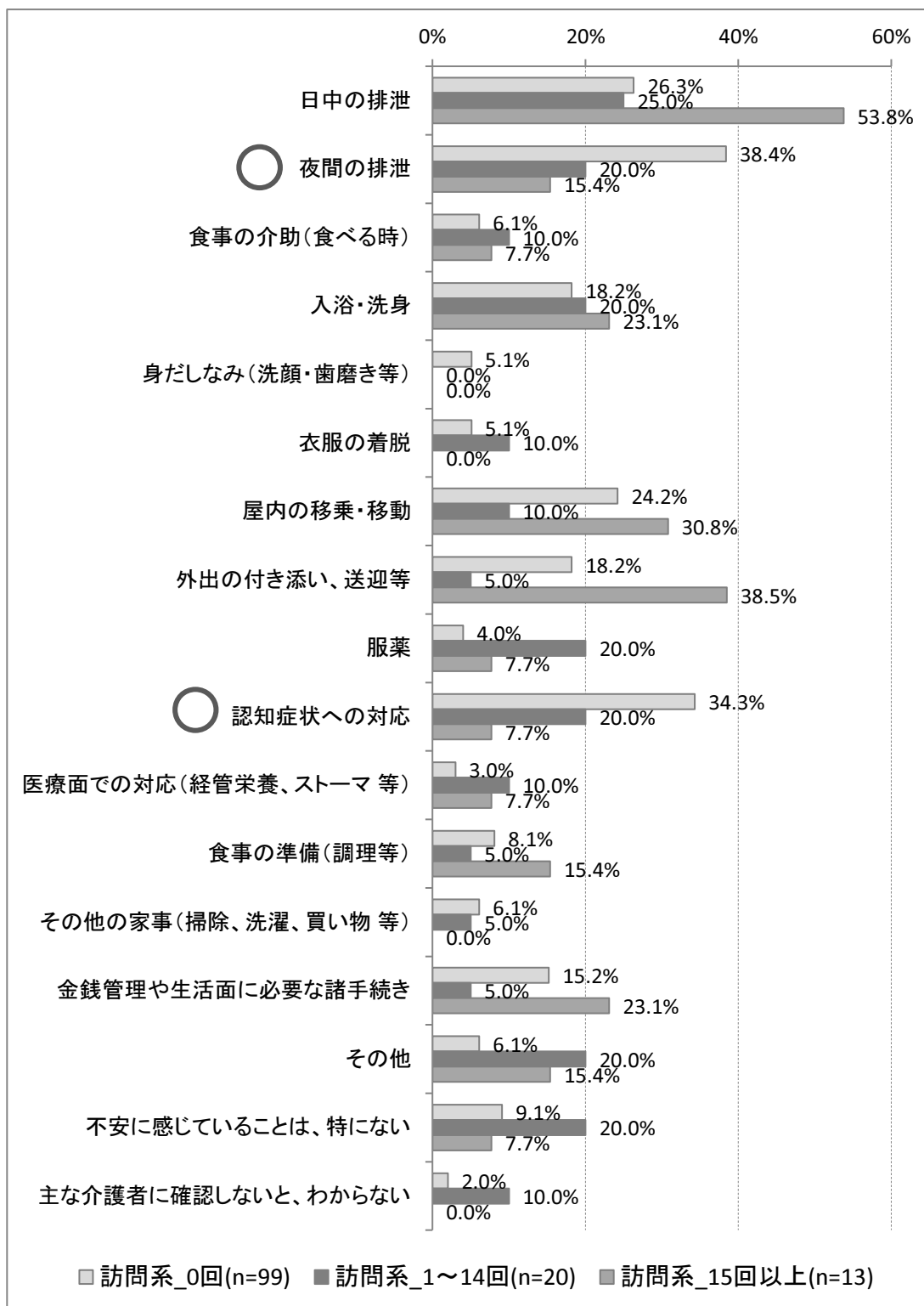
サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



②市の調査結果では……

市でも「認知症状への対応」と「夜間の排泄」は、訪問回数が増えると介護の不安が軽減する傾向が見られる。

サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



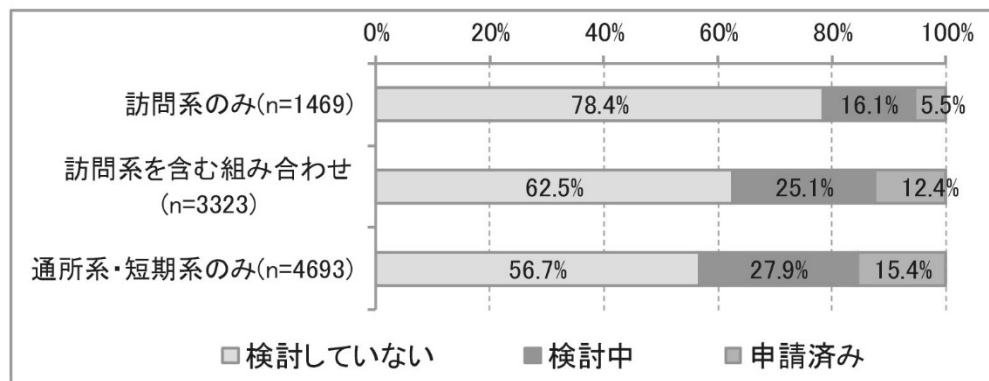
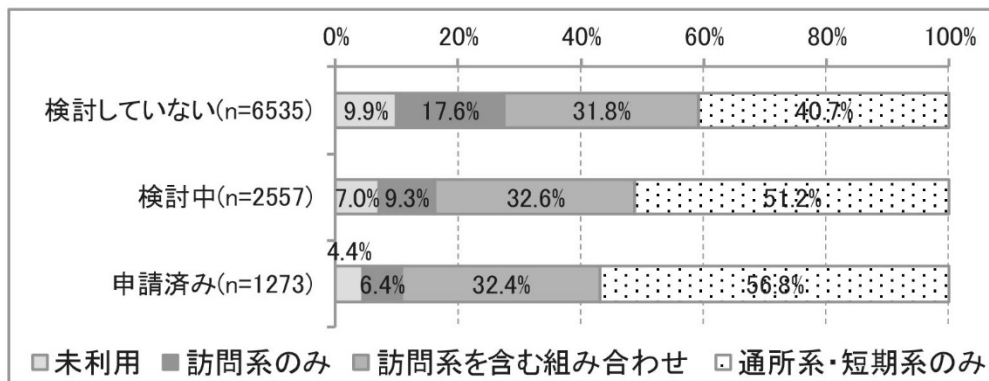
(5) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より)

◎「訪問系」サービスを利用する方は、「施設等の検討・申請割合」が低い

- ・「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を見ると、訪問系サービスを利用する方は、施設等の「検討中」、「申請済み」の割合が低い傾向がみられる。
- ・なお、特に「訪問系のみ」のケースで、施設等を「検討していない」の割合が高くなっている。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

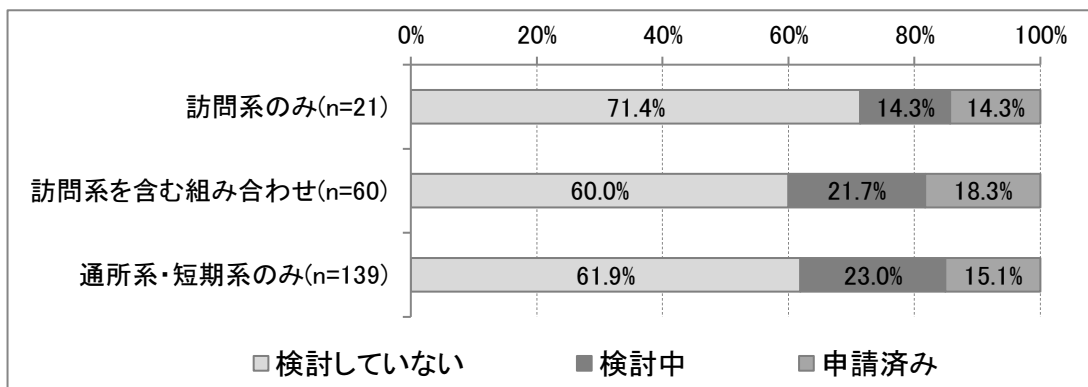
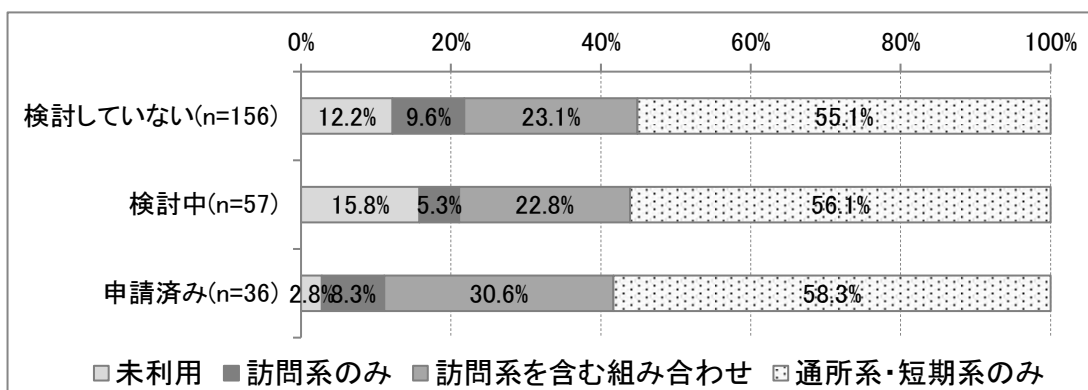


②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用者での施設等の「検討中」「申請済み」の割合は低くなっている。

また、訪問系のみ利用で施設入所を「検討していない」割合は全国より低くなっている。しかし「申請済み」が14.3%あり、全国の5.5%を上回っている。市の訪問系利用者では他サービス利用者より施設入所意向が少しだが高くなっている。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



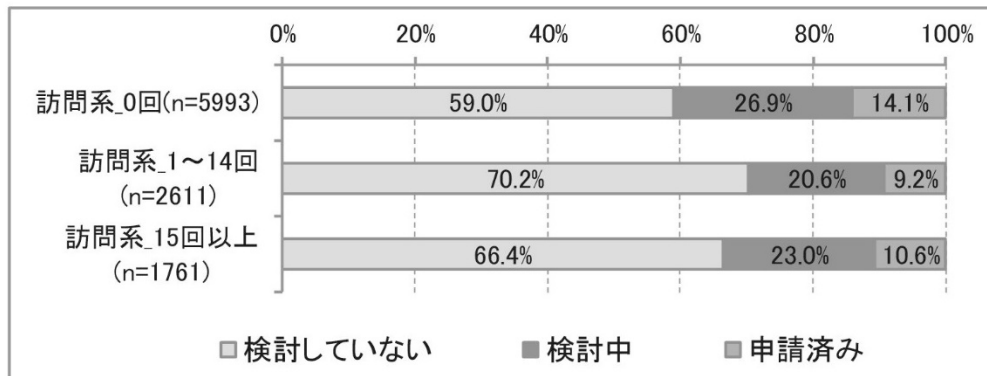
(6) 訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より)

◎施設等を「検討していない」方は、「訪問系」の利用回数が多い傾向

- ・「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係を見ると、施設等を「検討していない」方では、「訪問系」の利用回数が多い傾向となっている。

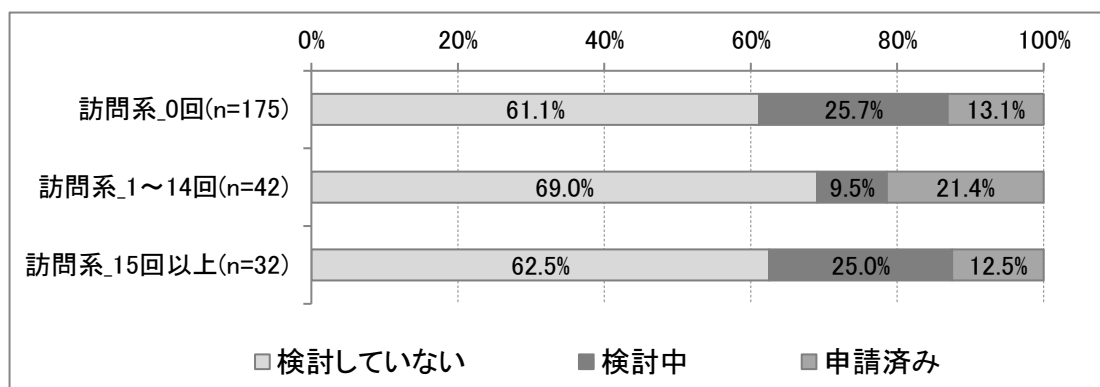
訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）



②市の調査結果では……

市では「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係を見た。施設等を「検討していない」方では、「訪問系0回」、「訪問系15回以上」は60%強であり、同程度となっている。また、「申請済み」についても、「訪問系0回」は25.7%、「訪問系15回以上」は25.0%であり、施設サービスの希望は、訪問系サービス未利用者と訪問系サービス15回以上利用者との大きな差は見られない。しかし、「訪問系1~14回」では施設等を検討していない割合が高く、訪問系サービスの利用による施設希望の抑制傾向が見られる。本調査以外の情報も収集した上で、訪問系サービス利用と施設希望との関係を見極める必要がある。

訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）



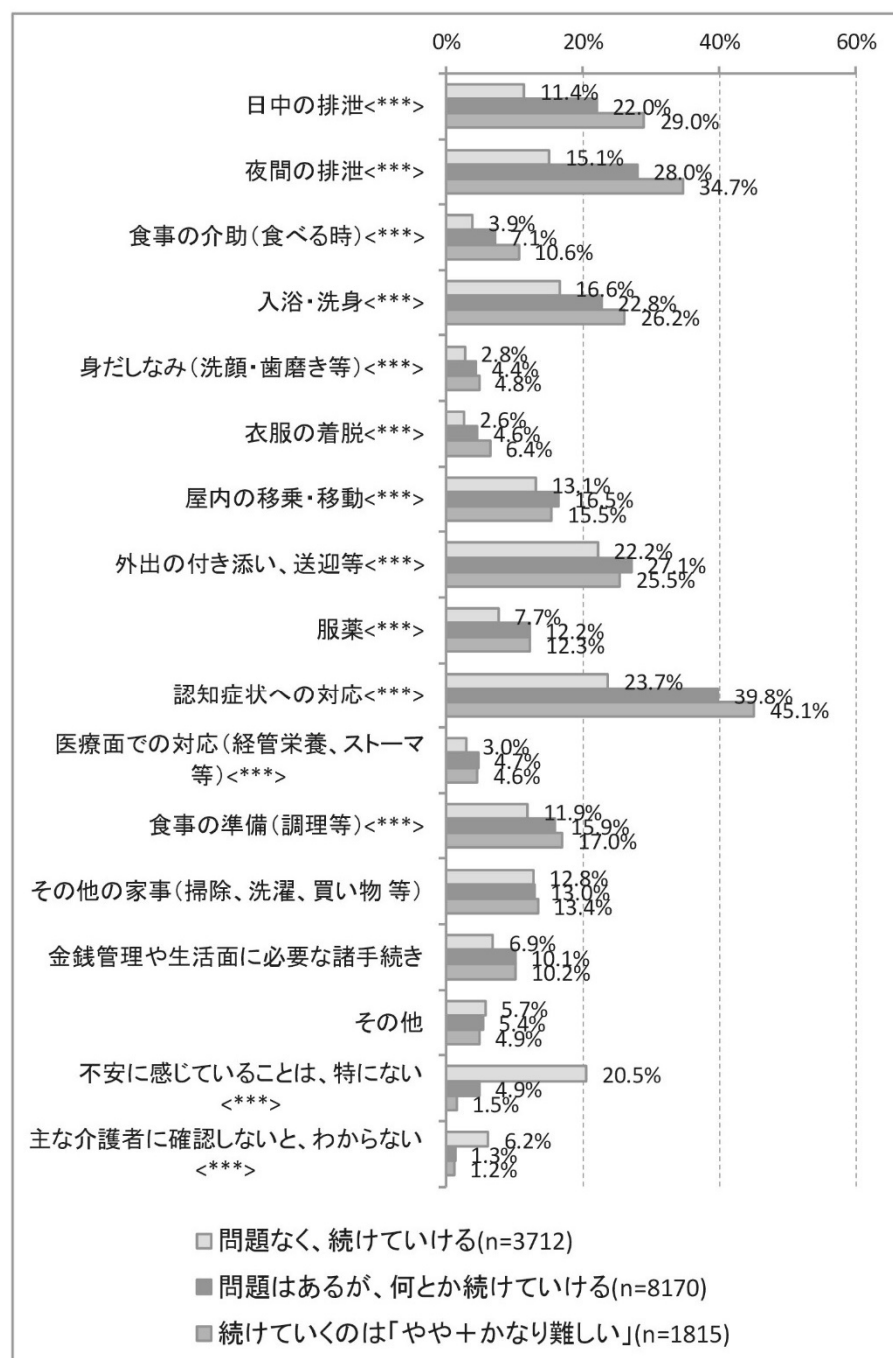
(7) 介護者が不安に感じる介護（就労継続見込み別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎就業継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」「日中・夜間の排泄」が高い傾向

- ・「就労の継続の意向」と、「今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護」の関係を見ると、就労継続が難しいと感じるにしたがって、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」「日中の排泄」等について、不安に感じる割合が高くなる傾向がみられた。
- ・これらの介護が「在宅生活を継続しながらの就労継続」について、介護者が可否を判断するポイントとなっている可能性がある。

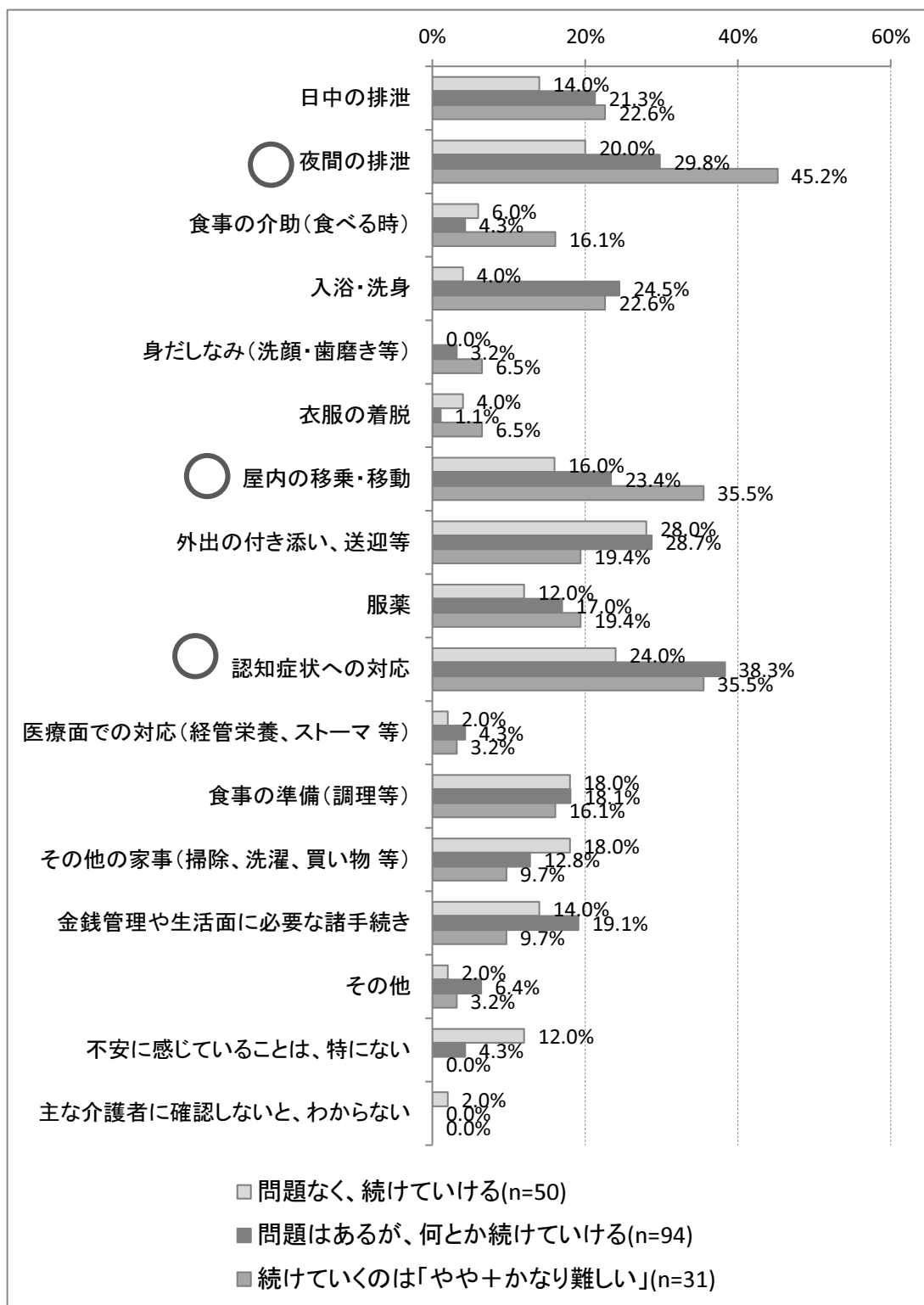
就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



②市の調査結果では……

市では、就労継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」が高くなっている。特に「夜間の排泄」を不安に感じる介護者が非常に多い。在宅介護を継続する上では、夜間対応型の訪問等も必要と考えられる。

就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

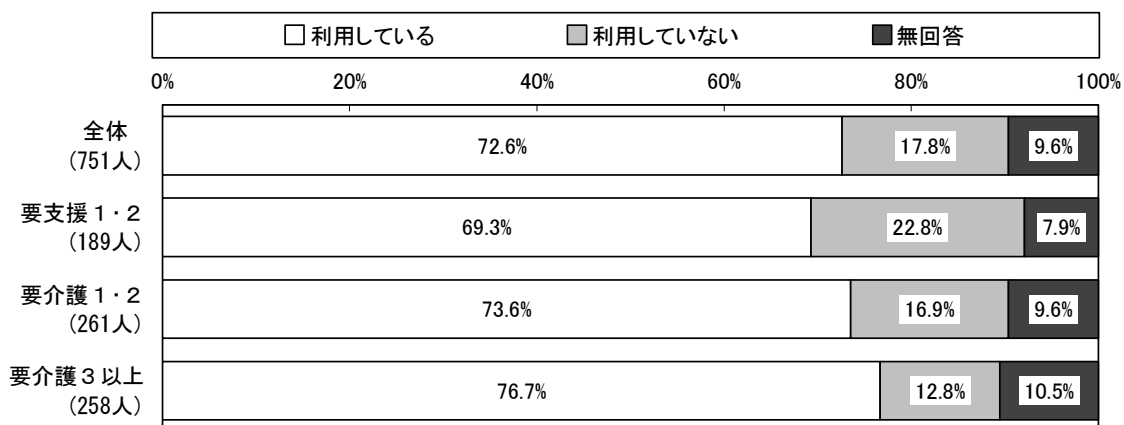


(8) 介護保険サービスの利用

①-1 介護保険サービスの利用状況（市の調査結果）

介護保険サービスを「利用している」は72.6%となっている。要介護度別に見ると、要介護度が上がるとともに利用率も上昇傾向にあり、要介護1・2と要介護3以上では7割を超えている。（ここでは、住宅改修、福祉用具の利用以外での介護保険サービスについて利用有無を聞いている）

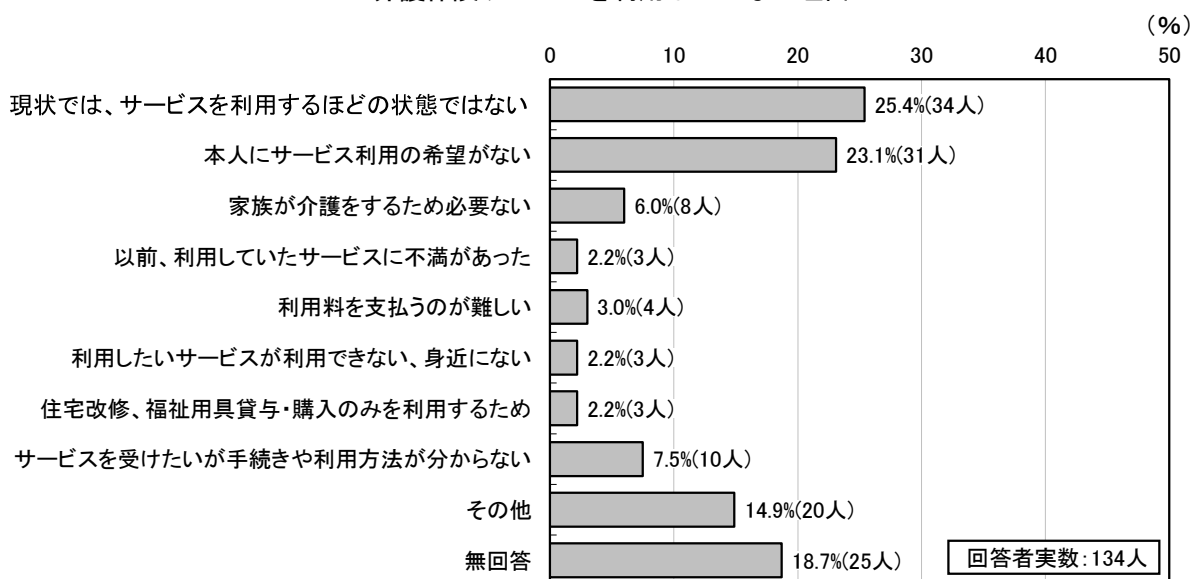
要介護度別・介護保険サービスの利用状況



①-2 介護保険サービスを利用していない理由（市の調査結果）

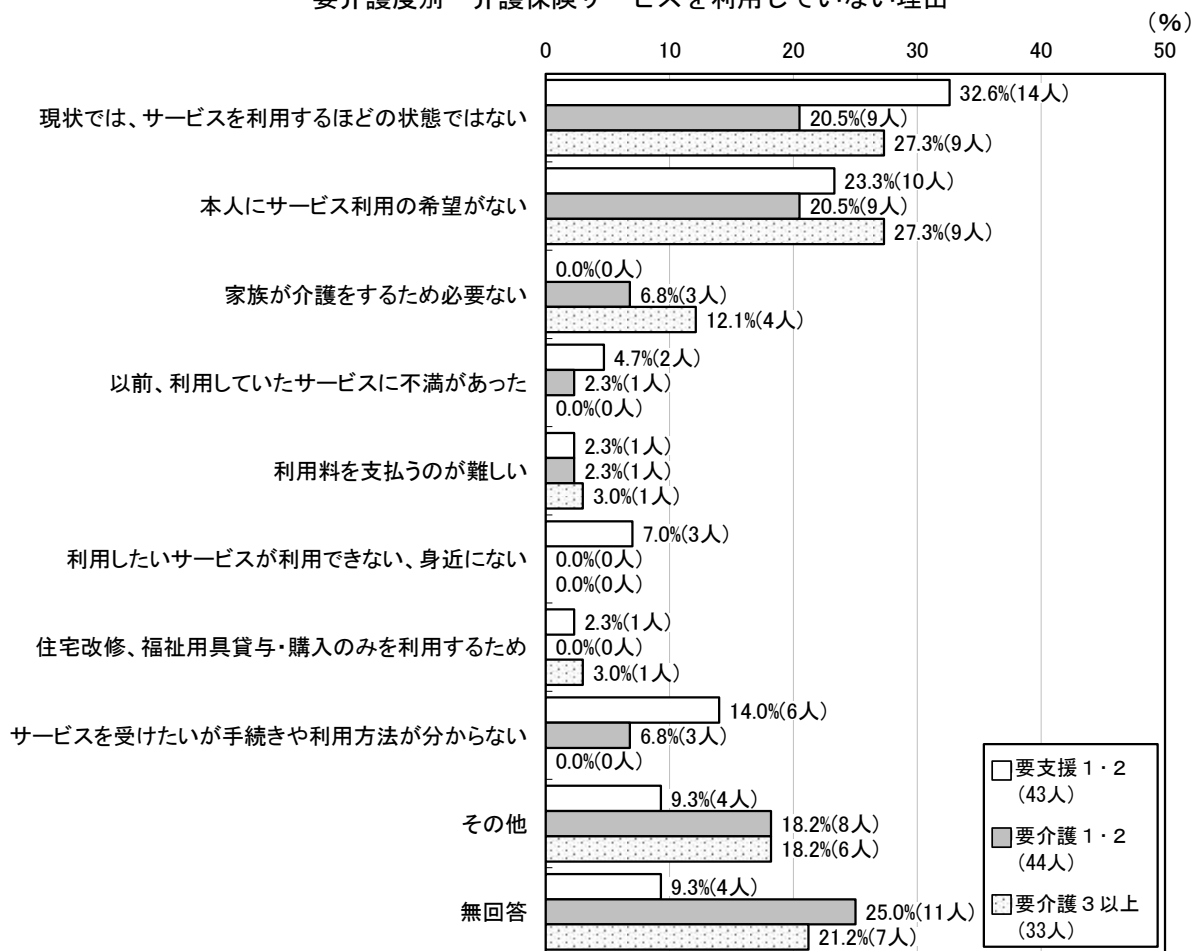
サービスを利用していない理由では、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が25.4%で高い。次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が23.1%となっている。未利用者の大半が利用の“必要性なし”や“利用希望なし”である。

介護保険サービスを利用していない理由



要介護度別に見ると、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」は、要支援1・2や要介護3以上で高くなっている。

要介護度別・介護保険サービスを利用していない理由



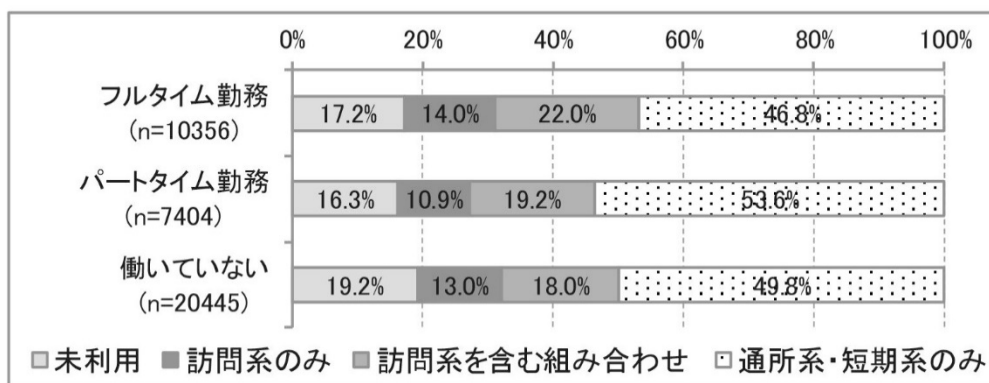
(9) サービス利用の組み合わせ（就労の状況別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎「通所系・短期系のみ」の利用が半数程度を占めるが、フルタイム勤務では「訪問系を含む組み合わせ」が2割ある。

- ・全国では、利用している介護保険サービスの組み合わせを見ると、「通所系・短期系のみ」が半数程度を占めている。また、フルタイム勤務で22.0%が訪問系を組み合わせたサービス利用をしている。

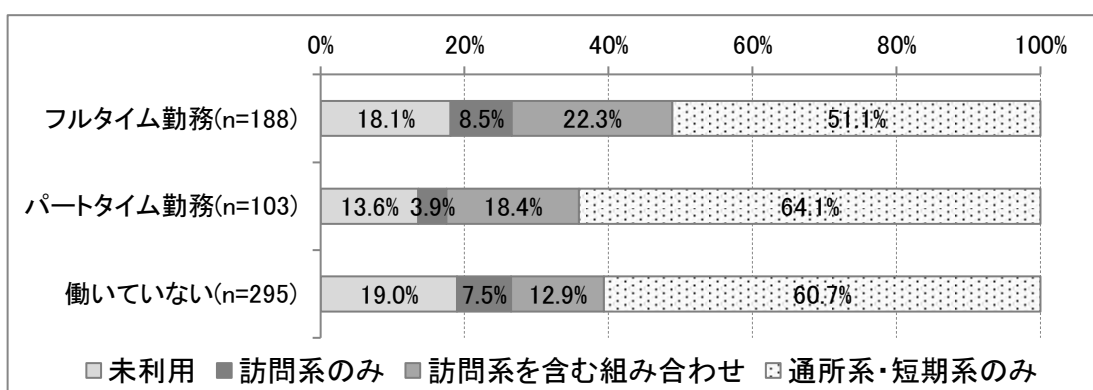
就労状況別・サービス利用の組み合わせ



②市の調査結果では……

市では、「通所系・短期系のみ」の割合は全国の割合より高く、「パートタイム勤務」は64.1%と他の「フルタイム勤務」、「働いていない」より高くなっている。

就労状況別・サービス利用の組み合わせ

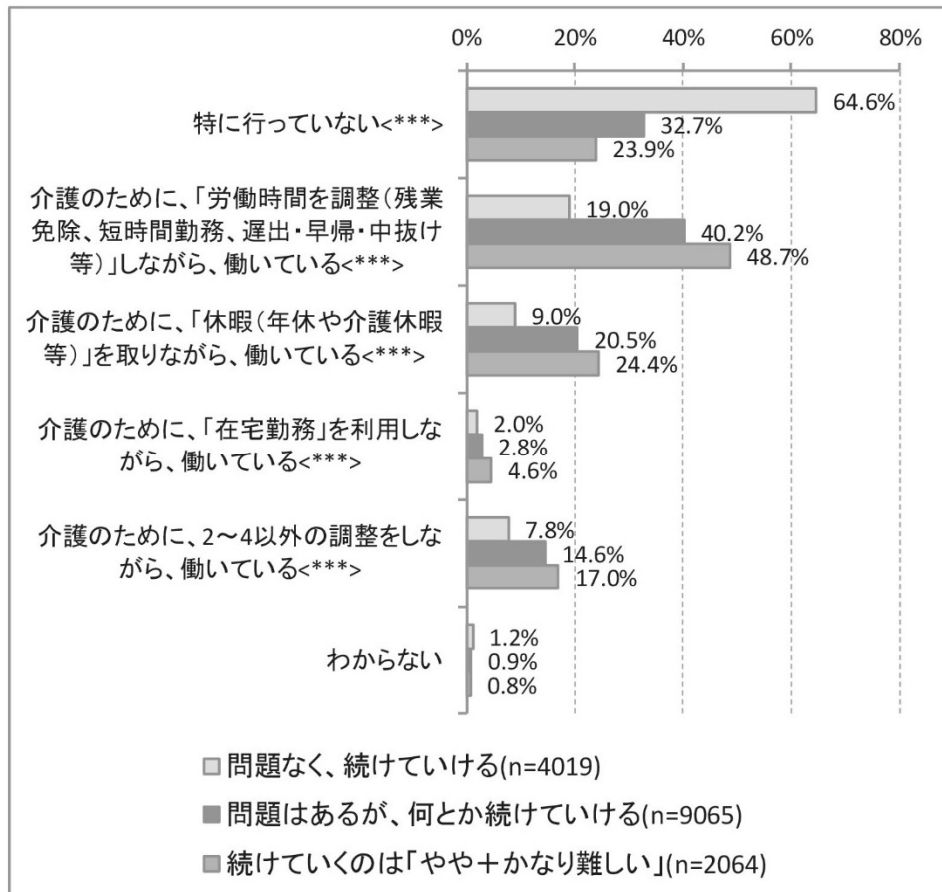


(10) 介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

- ・全国では、就業継続可能と考える介護者は、職場において働き方の調整を「特に行っていない」割合が高い。また、就労継続が難しいと考える介護者では、特に「労働時間の調整」をしながら働いている割合が高い。

就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

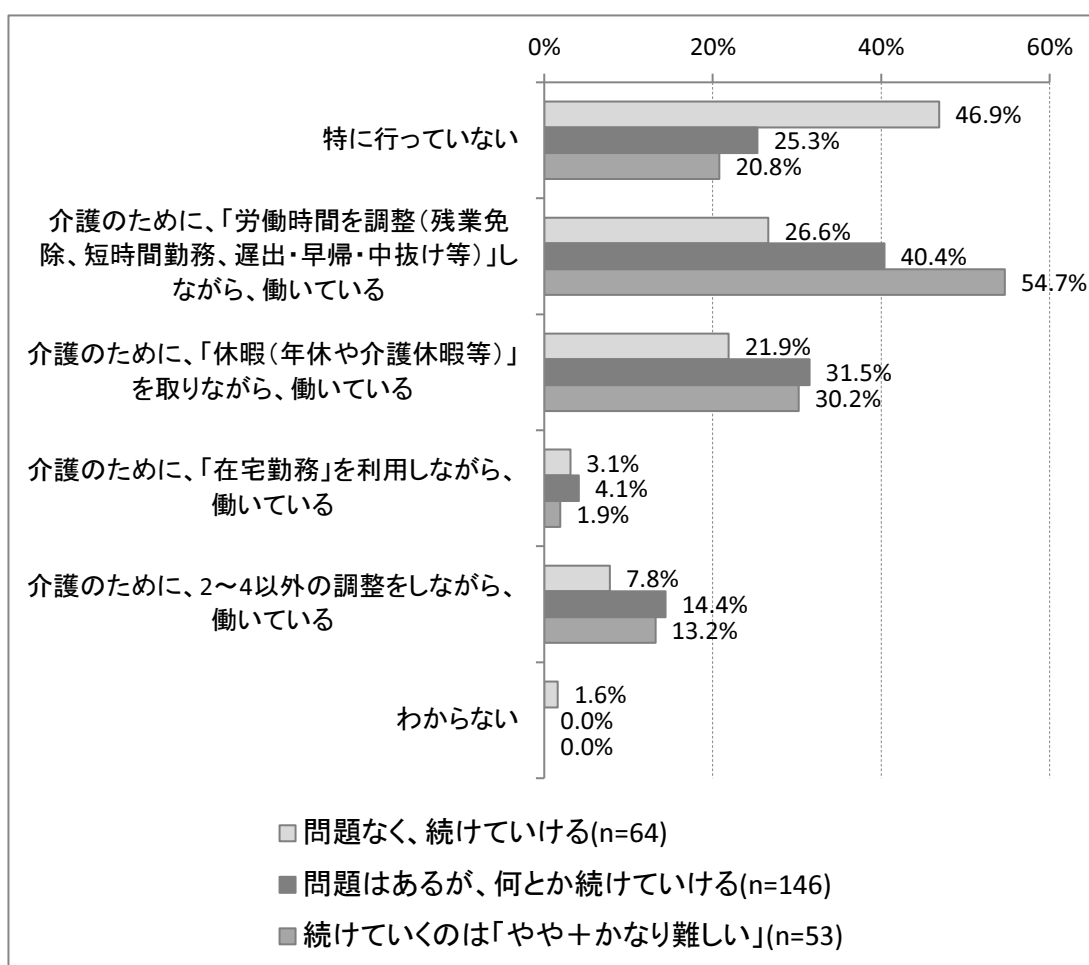


②市の調査結果では……

市でも全国と同様に「特に行っていない」は就労継続可能と考える介護者では非常に高くなっている。就労継続が難しいと考える介護者では、「労働時間の調整」が非常に高くなっている。

職場と調整しながら働いているにもかかわらず、就労継続が難しいと考える介護者が多く、家族介護者に対する職場の理解のほか、在宅介護を継続するために必要と感じることを把握する必要がある。

就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



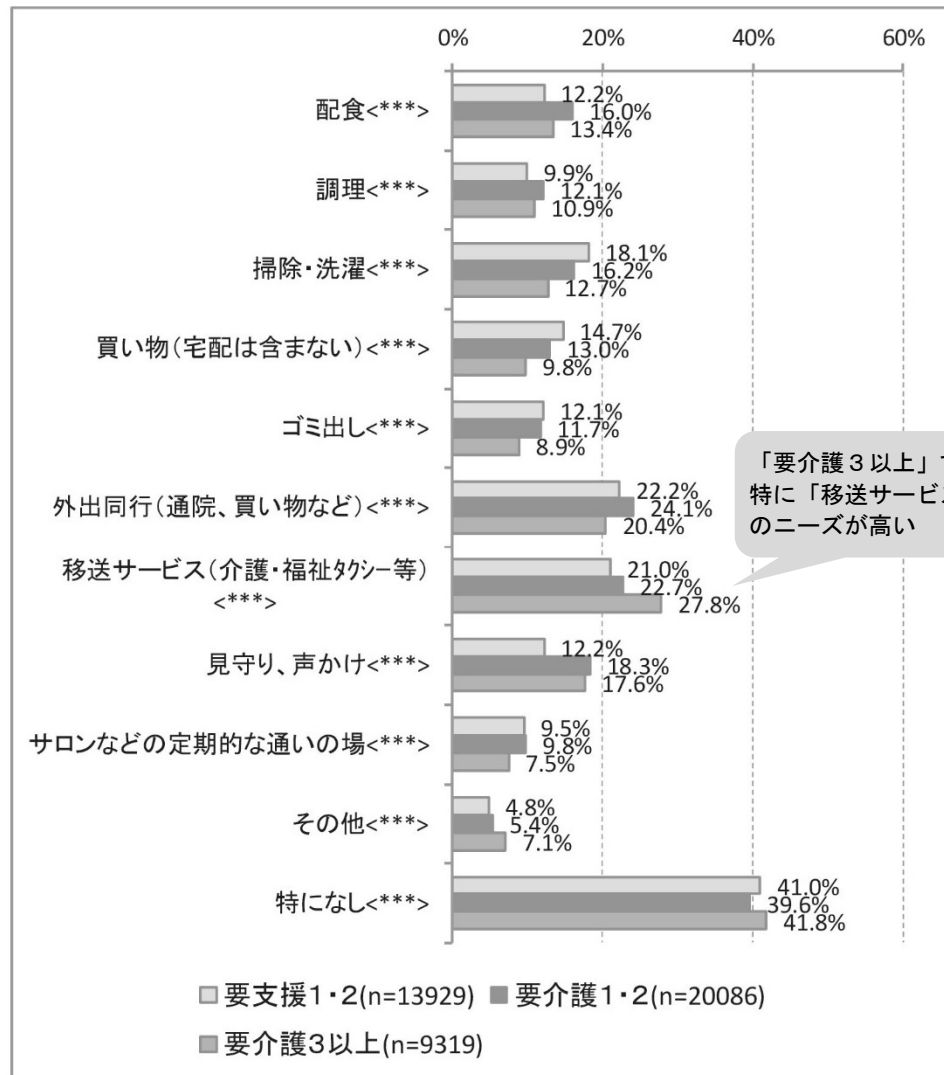
(11) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」は、要介護3以上では「移送サービス」が高い

・要介護度別の「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」を見ると、「要介護3以上」においては、特に「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.8%で、ニーズが高い傾向がみられる。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



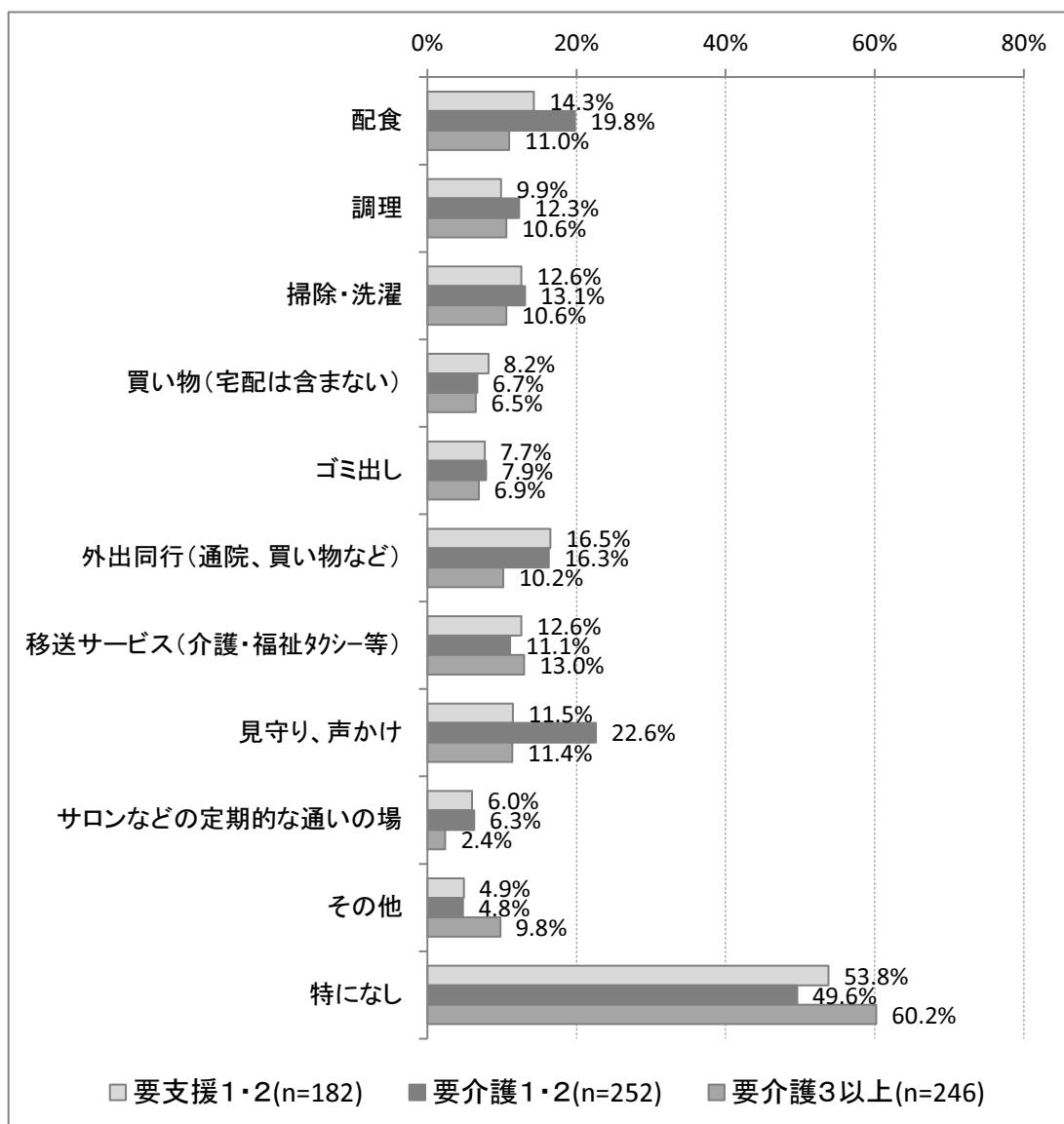
②-1 市の調査結果では……

市でも全国と同様に、「要介護3以上」では「移送サービス」が高くなっている。要介護1・2では、「見守り、声かけ」、「配食」が高い。

また、「要支援1・2」では、「外出同行(通院、買い物など)」、「配食」が求められている。

介護保険サービスと、保険外の支援やサービスを組み合わせながら、軽度のため、中重度のためのそれぞれに適切なサービスの整備等が必要となる。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



②-2 現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス（市の調査結果）

現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、要介護3以上は「見守り、声かけ」、「掃除・洗濯」、「調理」、「ゴミ出し」が10%前後で高い。

また、「要支援1・2」と「要介護1・2」では、「配食」が他のサービスより高い。

現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス



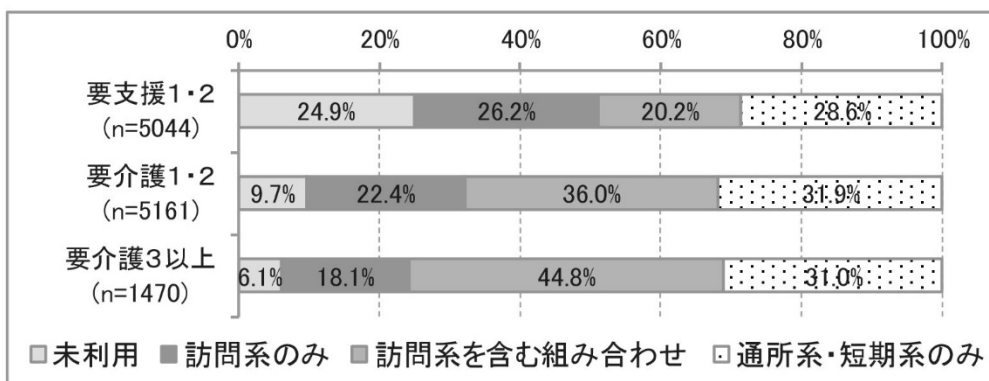
(12) サービス利用の組み合わせ（要介護度別・世帯類型別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

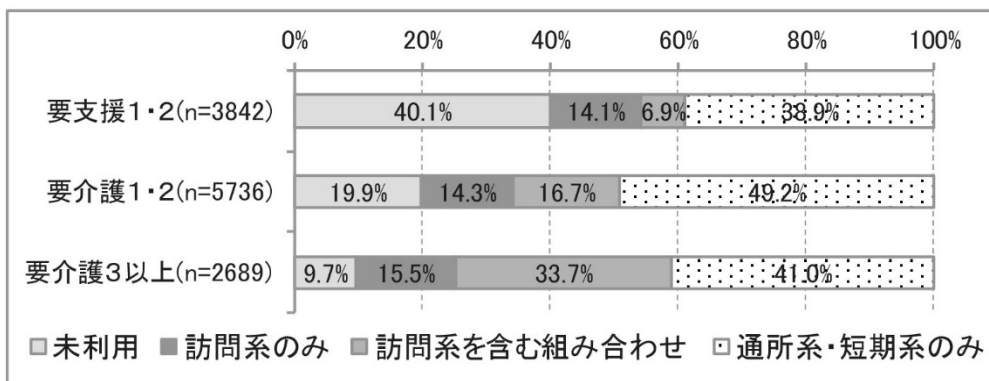
◎要介護度の重度化に伴い、いずれの世帯類型においても「訪問系を含む組み合わせ」が増加

- ・世帯類型別・要介護度別のサービス利用を見ると、要介護度の重度化に伴い「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」、「その他世帯(三世代世帯等)」では特に「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加する傾向がみられた。
- ・このように、現在、在宅で生活している要介護者は、要介護度の重度化に伴い「訪問系サービスを含む組み合わせ」利用をしていくことで、在宅生活の継続を可能にしていると考えられ、また、いずれの世帯類型についても概ね同様の傾向がみられるといえる。

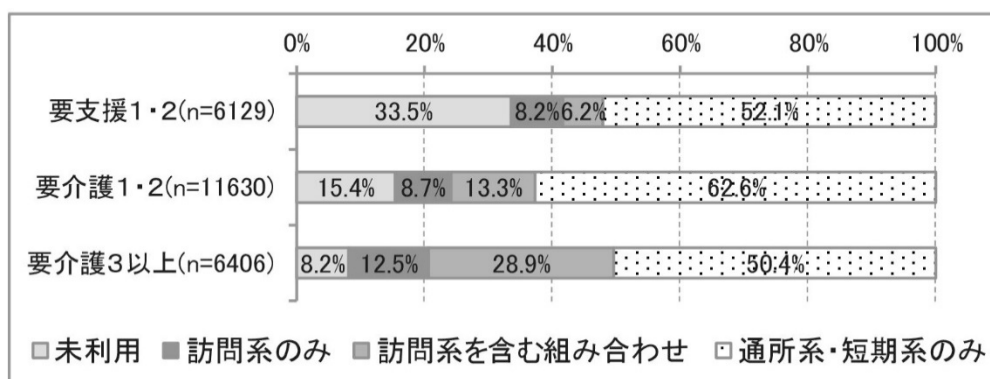
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



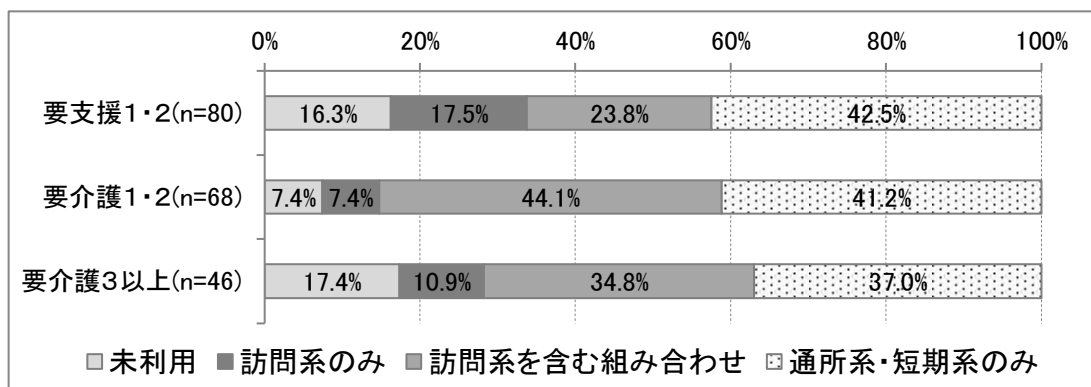
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



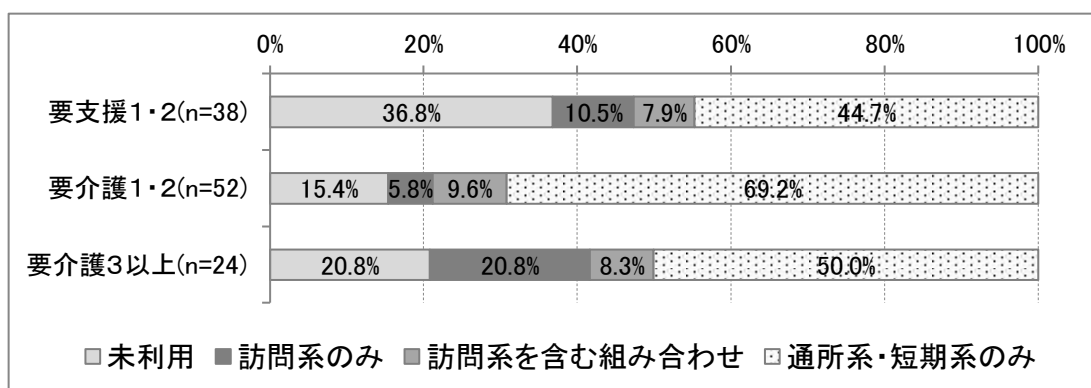
②市の調査結果では……

市では、全国の傾向である、要介護度の重度化に伴う「訪問系を含む組み合わせ」の増加は「その他世帯(三世帯世帯等)」ではみられるが、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では要介護1・2が高くなっている。

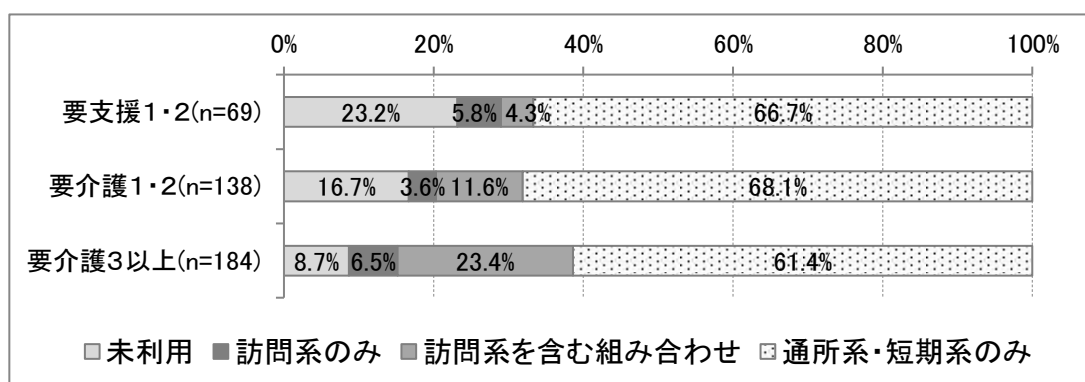
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



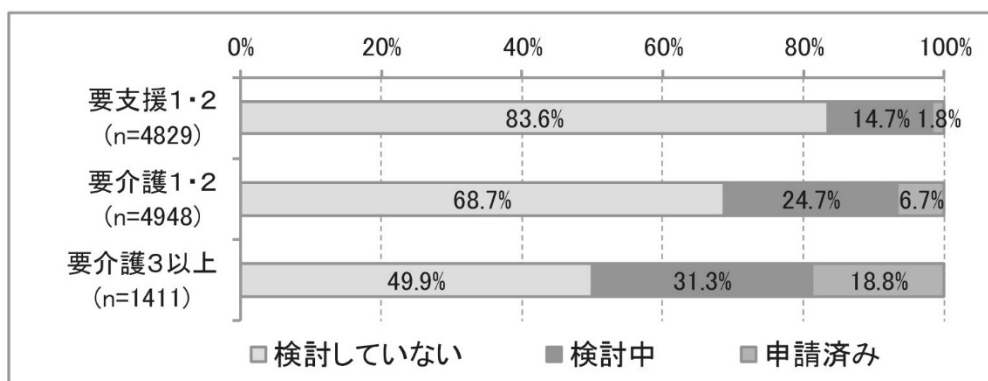
(13) 施設等検討の状況（要介護度別・世帯類型別）

①全国（試行実施市町村の集計結果より）

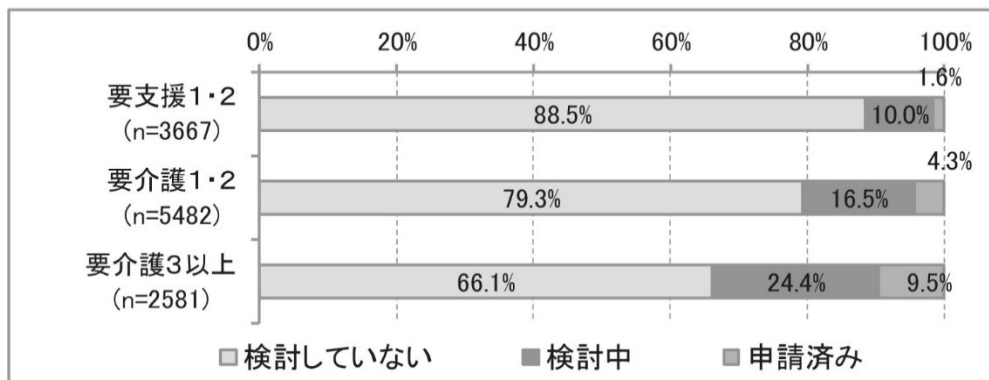
◎全国では、「夫婦のみ世帯」「その他世帯」では、要介護3以上においても「施設等を検討していない」割合が高い。

- ・施設等の検討状況について世帯類型別に見ると、要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では49.9%、「夫婦のみ世帯」と「その他世帯(三世帯世帯等)」では60%台であり、単身世帯以外では中重度の6割は施設を希望していない。反対に要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が18.8%、「夫婦のみ世帯」が9.5%、「その他世帯(三世帯世帯等)」が11.9%となっている。

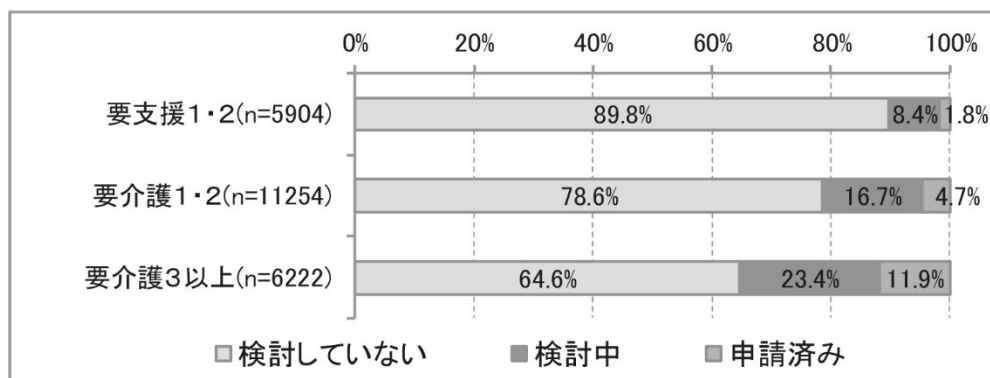
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

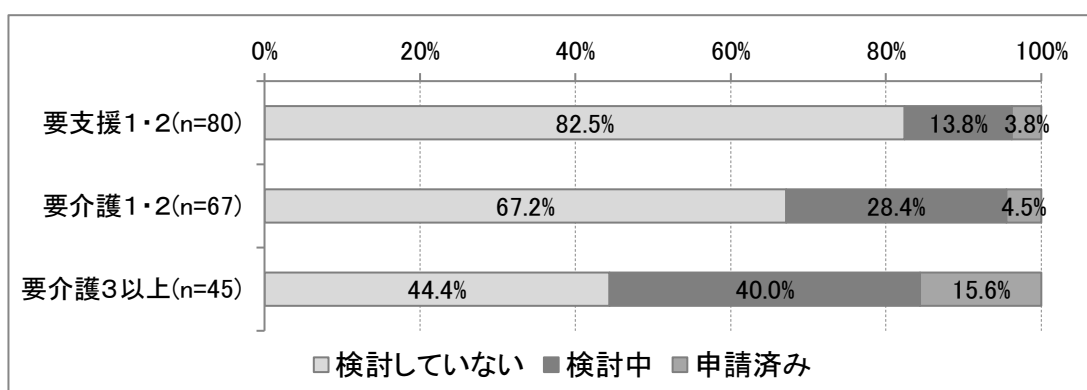


②市の調査結果では……

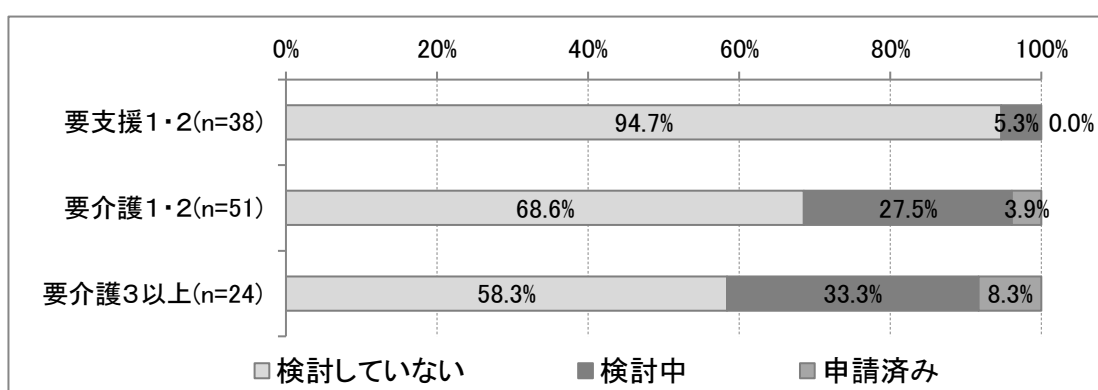
市では、施設について要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では44.4%、「夫婦のみ世帯」で58.3%、「その他世帯(三世代世帯等)」では67.8%であり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では、全国よりも低い。要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が15.6%、「夫婦のみ世帯」が8.3%、「その他世帯(三世代世帯等)」が14.7%であり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」は全国よりも低くなっている。

夫婦のみ世帯では、他の世帯類型と比べて、在宅意向が高いことがわかる。

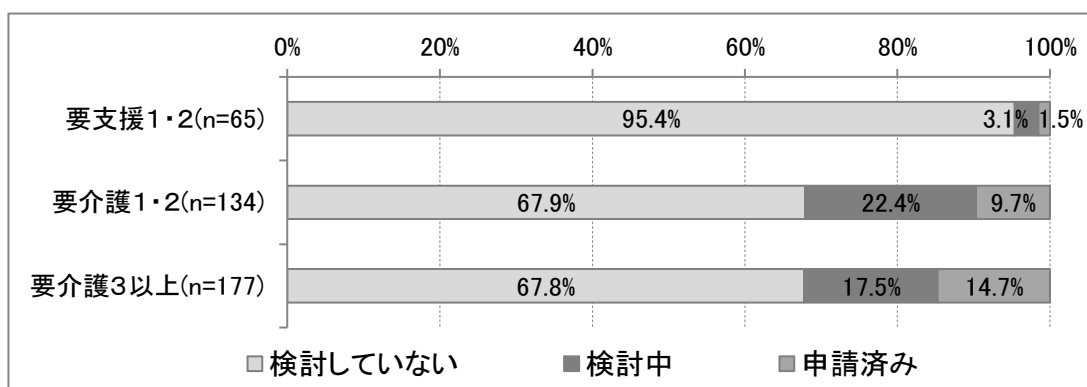
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

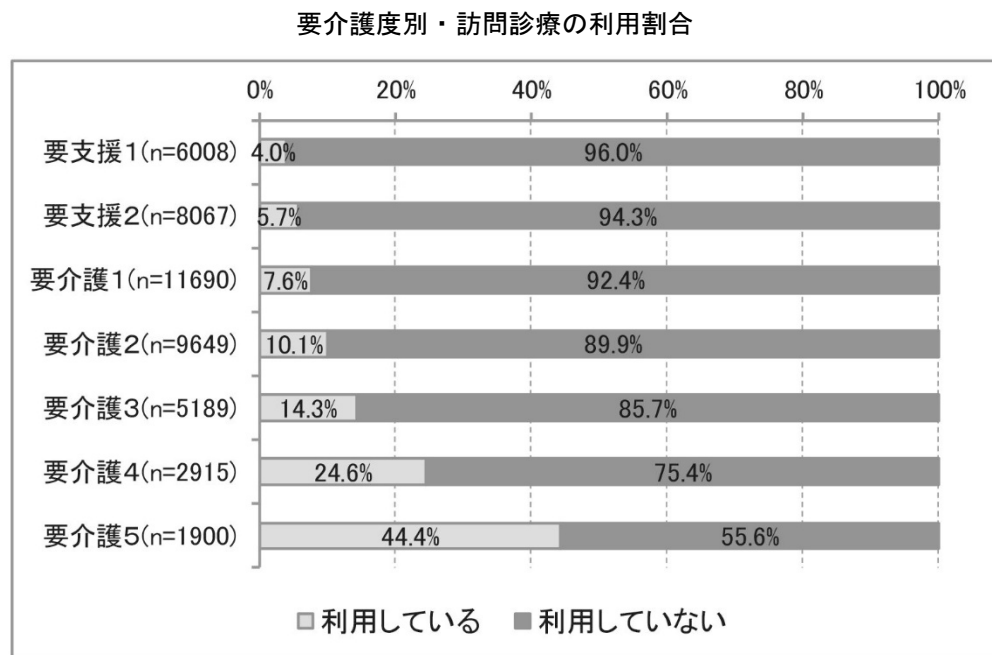


(14) 訪問診療の利用割合

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

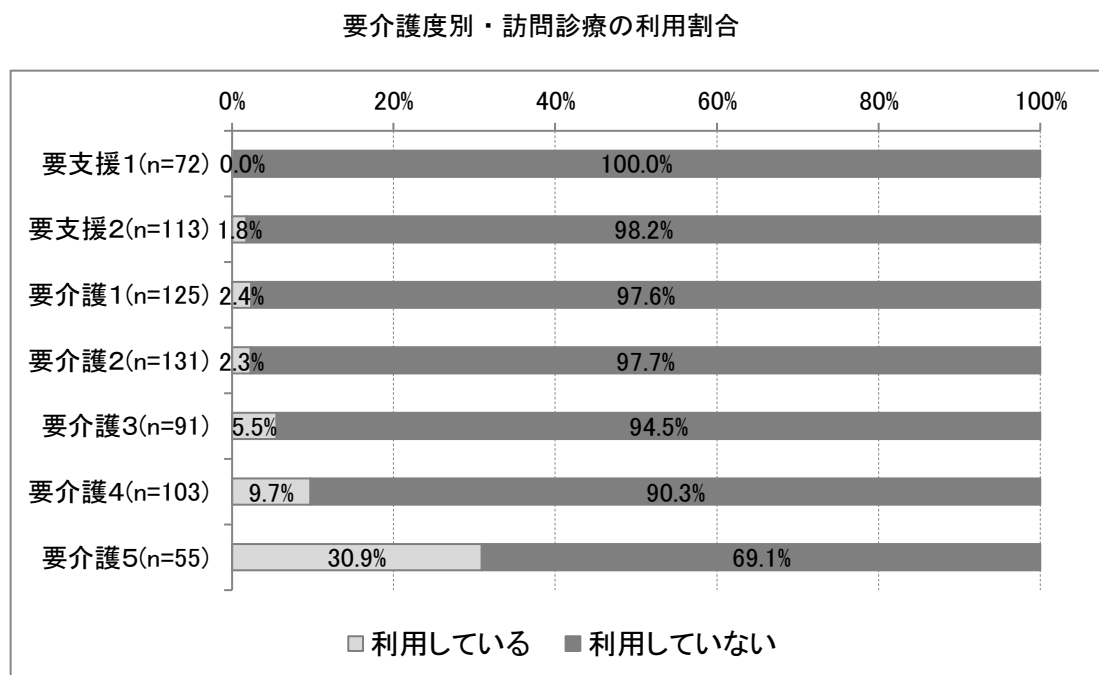
◎「要介護度の重度化」に伴い、「訪問診療」の利用割合が増加

- ・要介護度別の「訪問診療の利用の有無」を見ると、要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加しており、要支援1では4.0%であった訪問診療の利用割合が、要介護1では7.6%、要介護3では14.3%、要介護5では44.4%に増えている。



②市の調査結果では……

- 市では、全国より利用割合は低くなっているが、全国と同様に介護度が上がると利用割合が高くなる傾向が見られる。

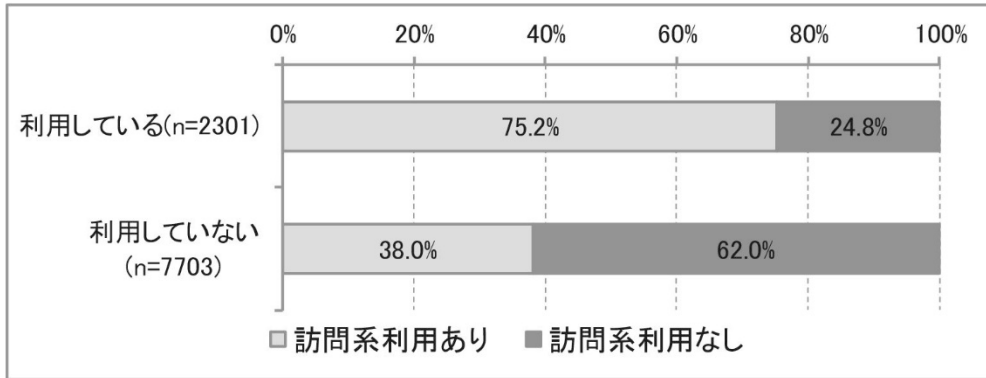


(15) 訪問診療とサービスの利用有無の関係

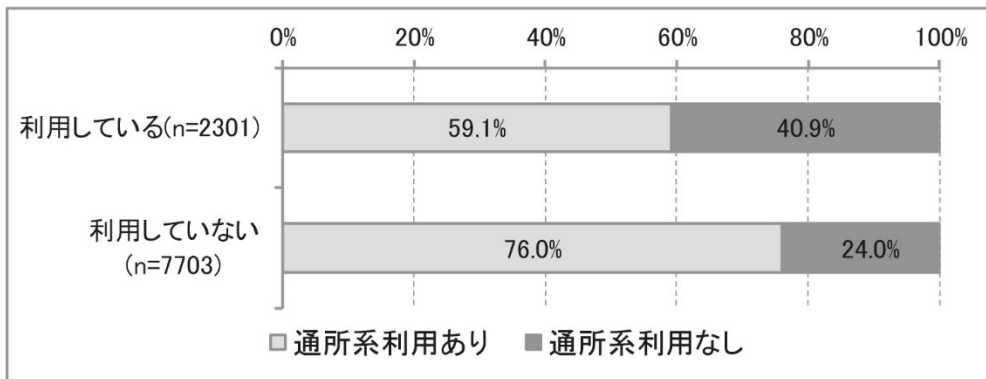
①全国（試行実施市町村の集計結果より）

◎全国では、「訪問診療を利用している」ケースでは、短期系の利用割合が低い。

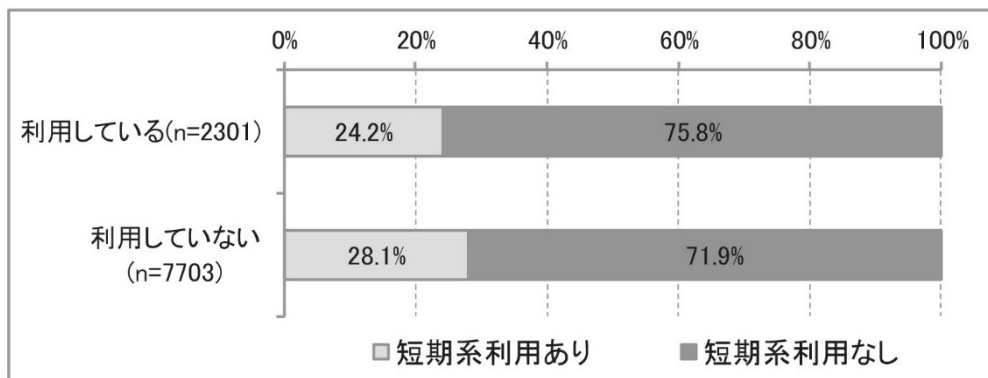
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



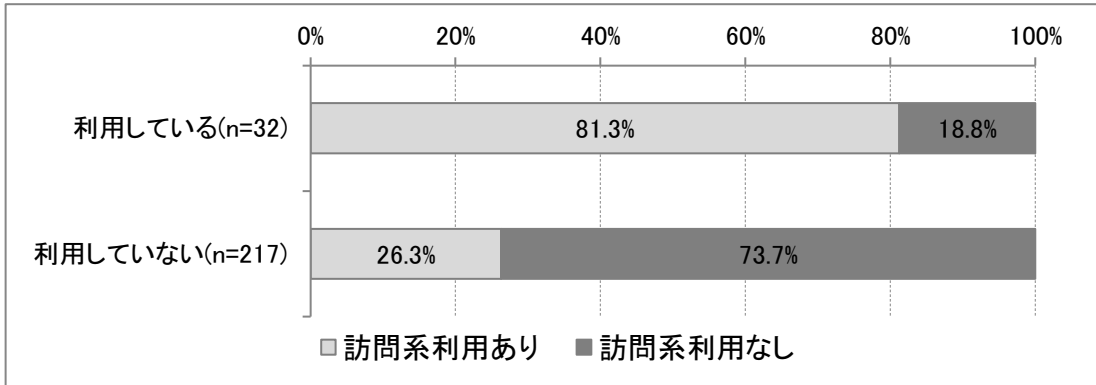
訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



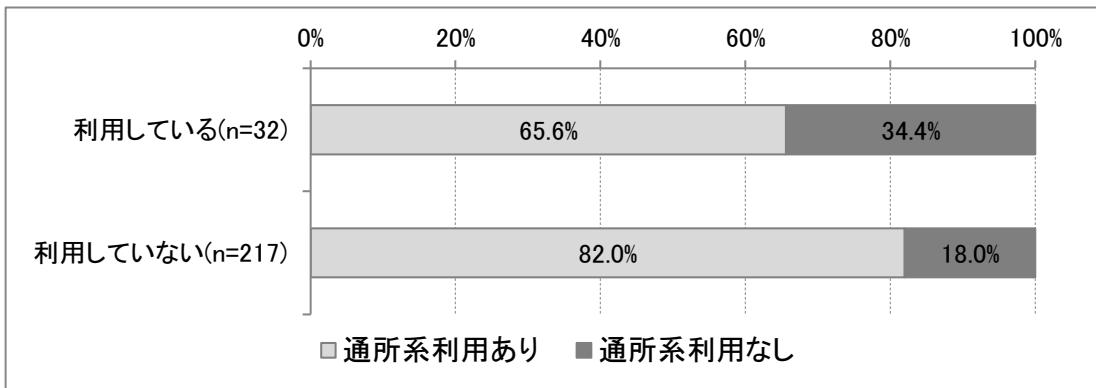
②市の調査結果では……

市においても、訪問診療利用者の短期入所利用割合が低くなっており、全国よりも低い。

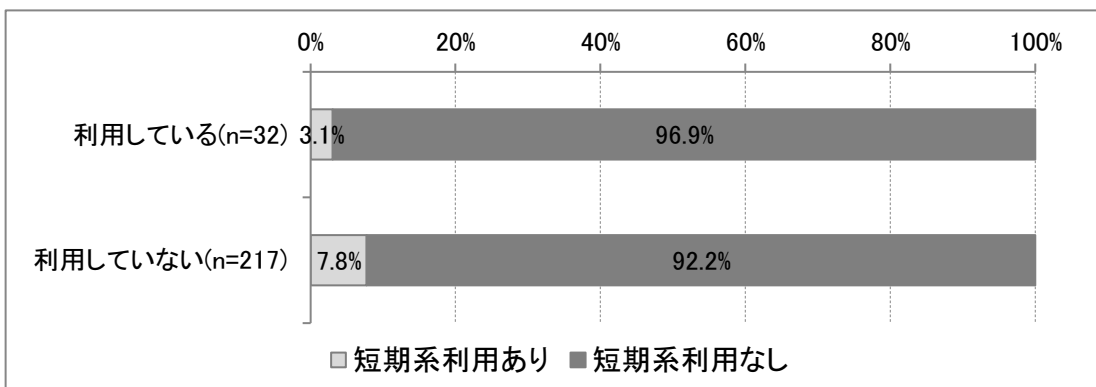
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



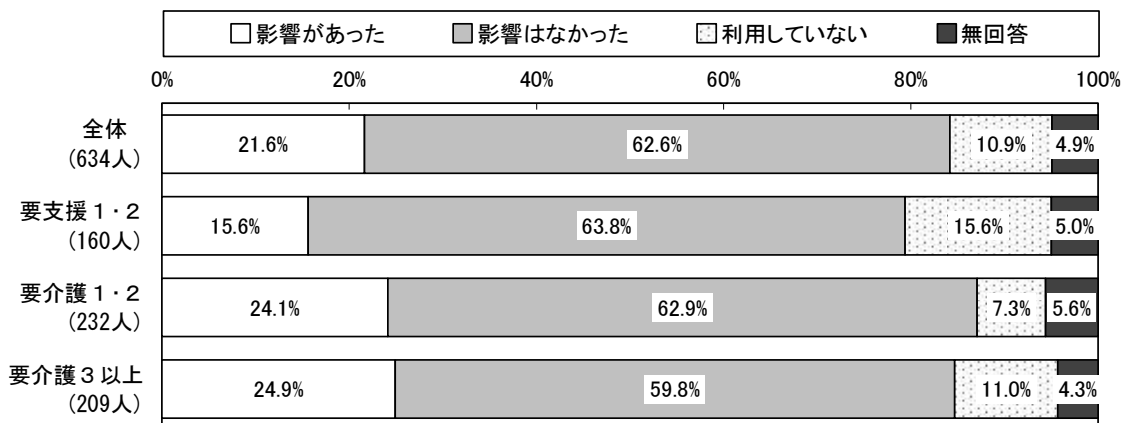
(16) 新型コロナウイルス感染症の影響

①介護サービス利用への影響（市の調査結果）

介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響を尋ねたところ、「影響があった」が21.6%、「影響はなかった」が62.6%となっている。

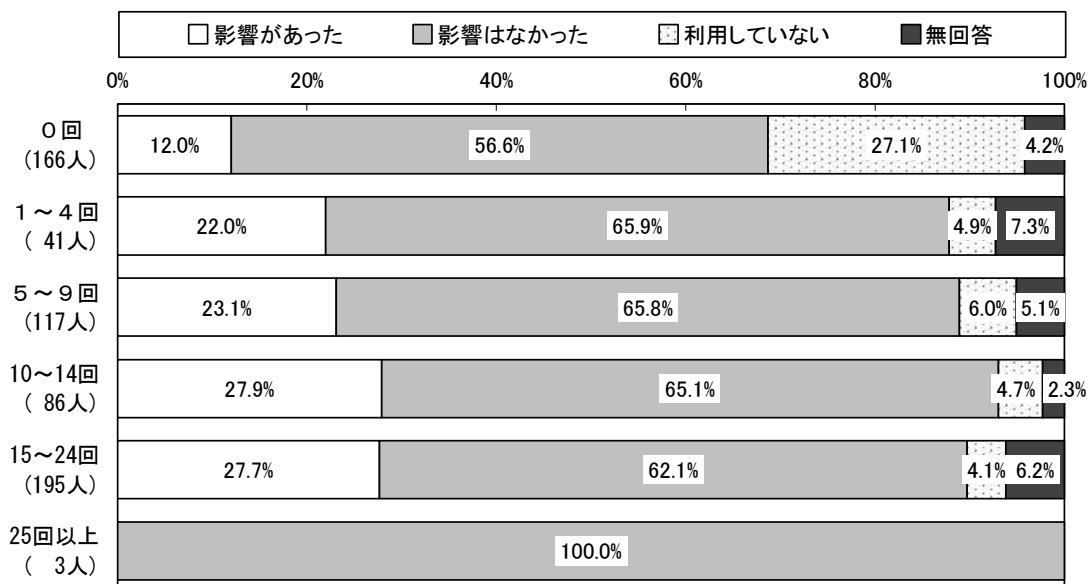
要介護度別に見ると、「影響があった」という回答は要介護度が重くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。

要介護度別・介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響



外出を抑えることを求められたコロナ禍では、日常生活にも大きな影響を与えたとされる。通所系の介護サービスの利用回数への影響をみると、「10～14回」利用は「影響があった」の割合が27.9%と高く、これに「15～24回」利用の27.7%が続いている。

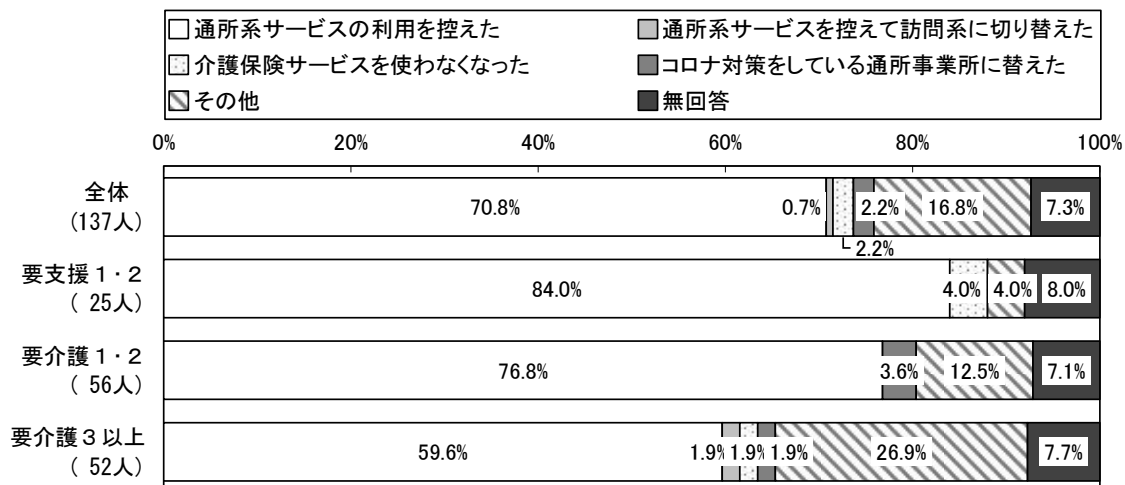
通所系サービスの利用回数別・介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響



介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答した人に、その影響の種類を尋ねると、70.8%の人が「通所系サービスの利用を控えた」と回答している。

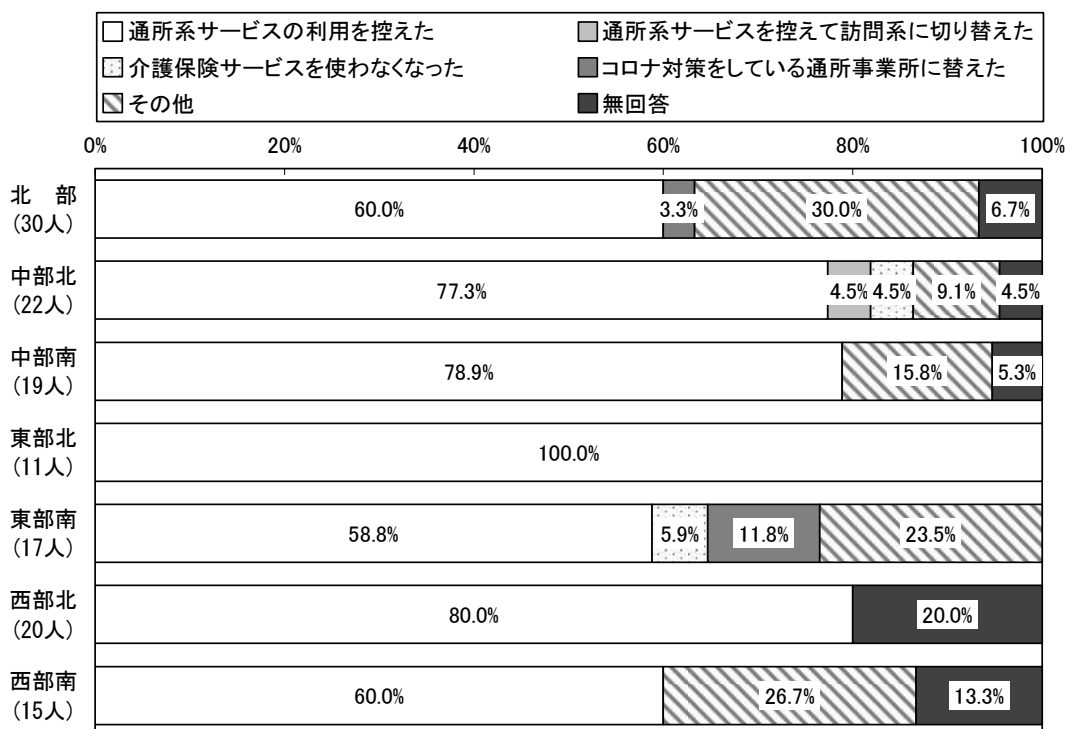
要介護度別に見ると、「通所系サービスの利用を控えた」は要介護度が上がると低くなる傾向にあり、要支援1・2では84.0%だが、要介護3以上では59.6%となっている。

要介護度別・新型コロナウイルス感染症の影響の内容



圏域別で見ると、「通所系サービスの利用を控えた」について差異が見られた。「控えた」が最も低かったのは「東部南」の58.8%であり、最も高かったのは「東部北」の100.0%であった。

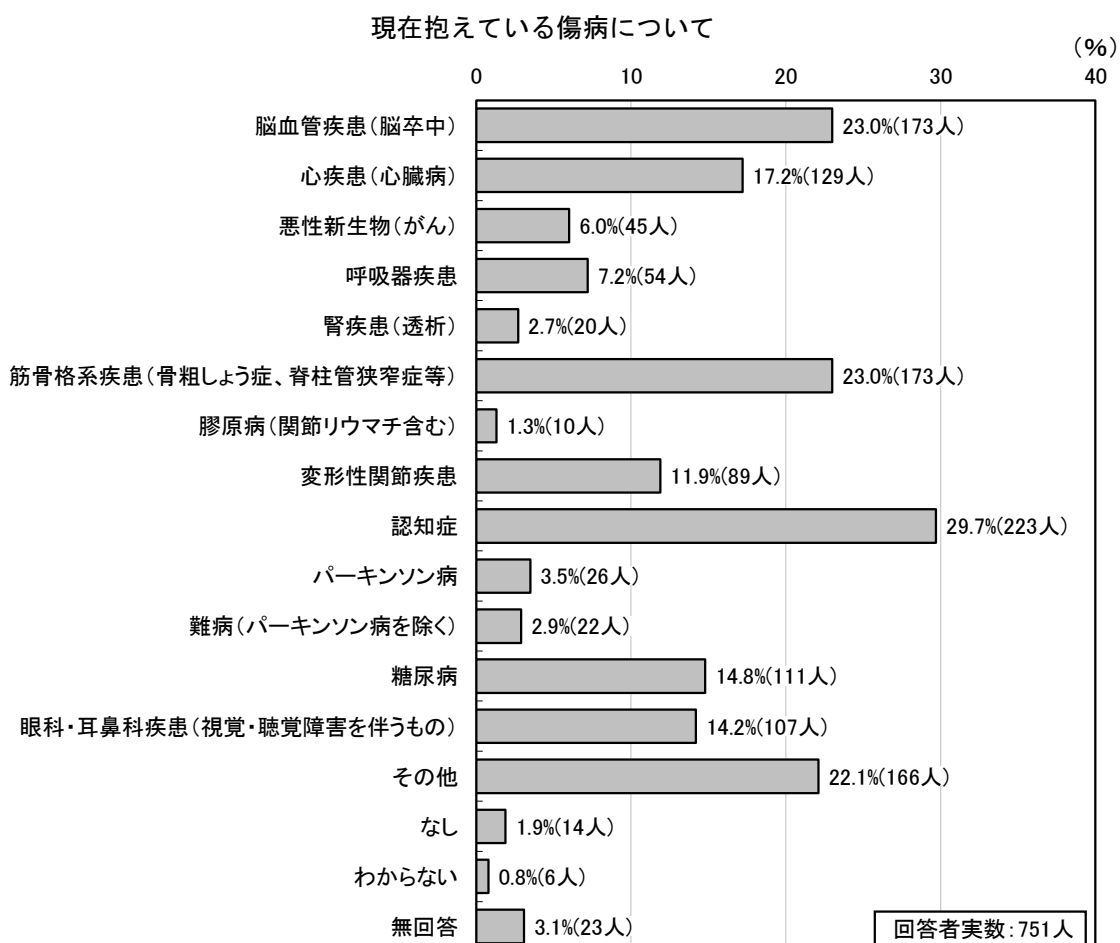
圏域別・新型コロナウイルス感染症の影響の内容



【その他】

①現在抱えている傷病について

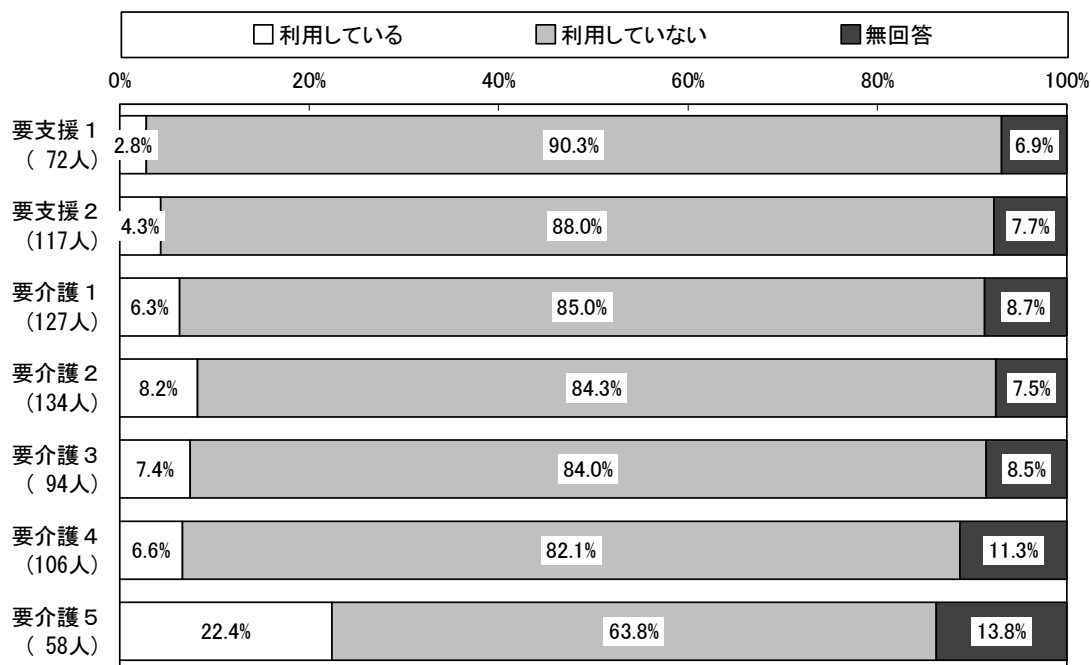
現在抱えている傷病については、「認知症」が 29.7%と最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」と「脳血管疾患（脳卒中）」が 23.0%で、3項目が 20%を超え高くなっている。また、「その他」も 22.1%ある。



②訪問看護の利用割合

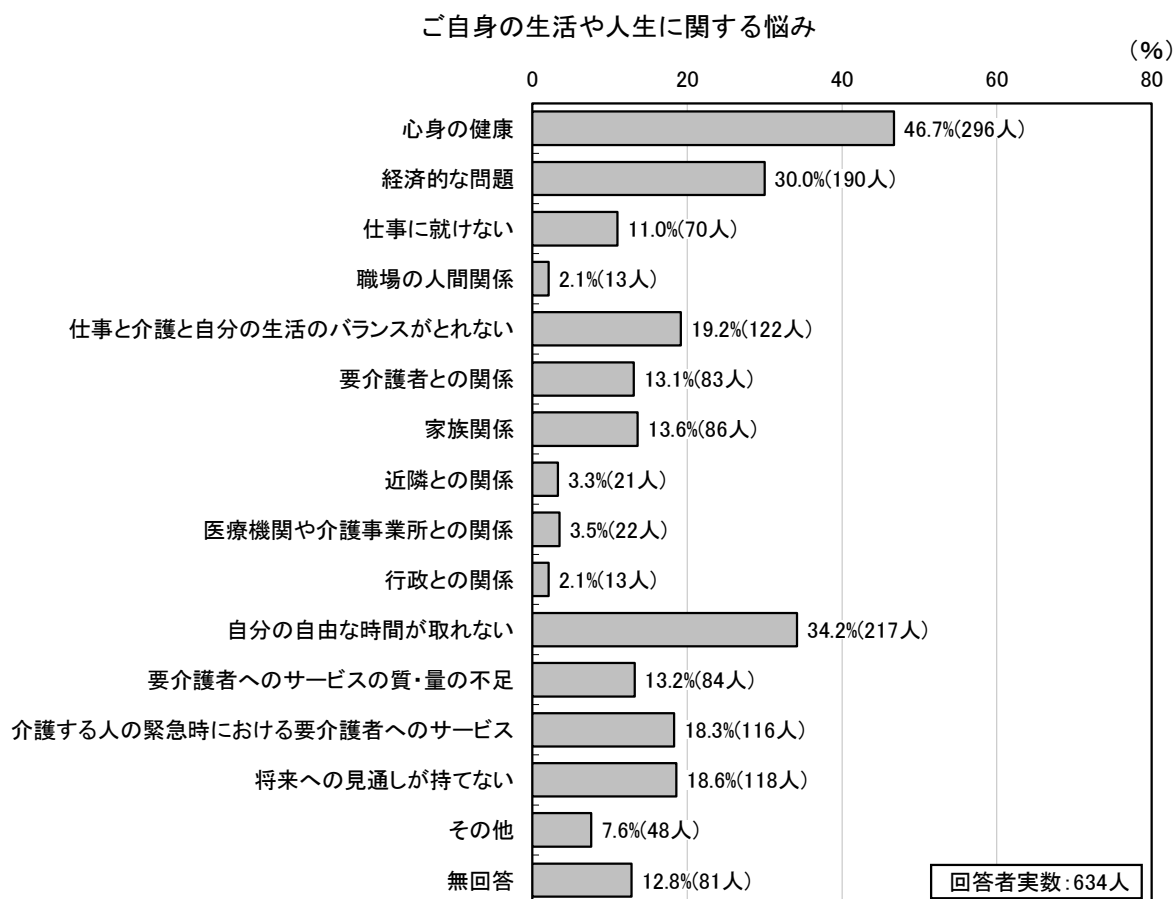
要介護度別の「訪問看護の利用の有無」を見ると、訪問看護の利用割合は要介護4までは10%未満だが、要介護5では22.4%に増えている。

要介護度別・訪問看護の利用割合



③ご自身の生活や人生に関する悩み

ご自身の生活や人生に関する悩みについては、「心身の健康」が 46.7%と最も高く、次いで「自分の自由な時間が取れない」が 34.2%、「経済的な問題」が 30.0%となっており、3項目が 30%を超え高くなっている。



Ⅱ. 在宅介護実態調査結果から見える課題のまとめ

まとめ 1. 在宅介護の状況（介護者）

- ・主な介護者の年齢を見ると、「60代」が26.3%で最も高く、次いで「50代」が25.7%、「70代」が21.1%、「80歳以上」が10.1%と、60歳以上での主な介護者が57.5%を占めている。
- ・介護の頻度は「ほぼ毎日」が約6割を占めている。
- ・介護者の孤独感を見ると、孤独を感じている介護者は43.7%となっている。要介護度別に見ると、孤独感がある介護者は、要支援1・2では32.5%であるのに対し、要介護1・2で45.3%、要介護3以上は51.7%であり、要介護者を持つ介護者の方で、孤独感を抱いている人が多くなっている。
- ・介護者が行っている介護の内容としては、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「食事の準備(調理等)」が高くなっている。要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣類の着脱」、「屋内の移乗・移動」がほかの介護度よりも非常に高くなっており、中重度の介護度では身体の介助・介護の度合いが高くなっている。

- 在宅介護における介護者は、60歳以上が約6割を占めている。中重度者の介護では、身体介護も必要であり、老々介護への対策を検討する必要がある。
- 介護者の中には孤独感を抱える人が4割を超えており、介護者の孤独感を緩和する取組が必要である。

まとめ 2. 介護者の就労と介護の状況

- ・「就労しながら介護を行っている」割合が 48.6%で、4割以上が働きながら介護を行っている。
- ・介護者の日中の在宅状況を見ると、「日中はほとんど家にいる」が 37.5%で最も高いものの、“家にはいない”も 39.4%あり、特に「仕事のため、日中はほとんど家にはいない」は 25.4%であった。
- ・介護と就労の両立について、「続けていくのは、やや難しい」が 11.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が 6.2%であり、就労継続が困難と考えている介護者は 17.9%となっている。
- ・仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこととして、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が高くなっている。
- ・利用している介護サービスは、ほとんどが通所系のみであり、介護者が就労等で日中不在となるため、訪問系よりも通所系の介護サービスが利用されていると考えられる。

- 主な介護者のうち、4割以上が働きながら介護を行っており、「仕事のため日中は家にほとんどいない」が2割半ばを占める。
- 介護のため就労が困難と考えている介護者が1割弱おり、仕事と介護の両立のため、介護休業・介護休暇等の制度の充実や制度を利用しやすい職場づくりを求める声が多い。
- 在宅介護者のうち半数程度は、就労等のため主な介護者が日中不在となることから、通所系サービスが利用されるという生活スタイルが見られる。
- 仕事と介護の両立のための施策を検討する必要がある。

まとめ 3. 介護をする上での困りごと、求められている生活支援

- ・介護をする上での困りごととしては、要介護3以上については「夜間の排泄」が 33.3%で最も高いほか、「認知症状への対応」、「日中の排泄」がこれに次いで高い。また、要介護1・2では「認知症状への対応」が 42.4%あり、要介護3以上を 12.9ポイント上回っている。要支援1・2では、「外出の付き添い、送迎等」が 40.7%と最も高くなっている。
- ・就労継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」が高くなっている。特に「夜間の排泄」を不安に感じる介護者が非常に多い。
- ・在宅生活を継続するために必要と感じる支援・サービスとしては、「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が高くなっている。要介護1・2では、「見守り、声かけ」、「配食」が高い。また、要支援1・2では「外出同行(通院、買い物など)」、「配食」が求められている。

- 在宅介護における困りごととして、「夜間の排泄」と「認知症状への対応」が特に多く、対応策の検討が必要である。
- 在宅介護を継続するために求められる支援・サービスは、介護度によって異なることから、軽度者、中重度者、それぞれに合った支援の方法を考えなければならない。

まとめ4. 施設入所の希望

- ・施設入所の希望について見ると、要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では44.4%、「夫婦のみ世帯」では58.3%、「その他世帯(三世代世帯等)」では67.8%であり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では、全国よりも低い。
- ・要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が15.6%、「夫婦のみ世帯」が8.3%、「その他世帯(三世代世帯等)」が14.7%であり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」は全国よりも低くなっている。

- 在宅介護の継続希望は、要介護3以上では全国値より若干低い状況にある。
- 施設入所希望は、「申請済み」は、「単身世帯」、「その他世帯」が1割半ば、「夫婦のみ世帯」が1割未満となっている。
- 在宅介護の実態として、施設入所希望が「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」は全国値を下回っており、入所施設の整備を検討する必要がある。

まとめ5. 訪問診療や訪問看護等の利用

(訪問診療の利用状況)

- ・在宅介護を継続する上では、在宅医療の充実も必要であるが、市では5.7%と、全国10.0%と比べて訪問診療の利用率が低くなっている。
- ・要介護度で見ると、要介護度の上昇に比例して利用割合が高くなっている。

(訪問看護の利用状況)

- ・訪問看護の利用状況は、全体では7.6%の人が「利用している」と回答している。
- ・要介護度の上昇に比例して概ね利用割合が高くなっている。特に、要介護5では22.4%と他の介護度よりも高くなっている。

- 本市では、訪問診療の利用割合が要介護度の上昇に比例して高くなっているが、全国と比べると低くなっている。
- 要介護認定者が在宅生活を続けるためには、疾病や要介護度の重度化防止施策のほか、在宅医療と介護の連携が重要であり、地域の包括的支援体制の強化が必要である。

まとめ6. 新型コロナウイルス感染症の影響

(介護サービス利用への影響)

- ・介護サービスへの利用について新型コロナウイルス感染症の影響を尋ねたところ、「影響があった」が21.6%、「影響はなかった」が62.6%となっている。要介護度別に見ると、「影響があった」という回答は要介護度が重くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。
- ・通所系の介護サービスの利用回数への影響を見ると、月あたりの利用回数が多いほど、影響があったという回答割合が高い傾向がある。
- ・介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答した人に、その影響の種類を尋ねると、70.8%の人が「通所系サービスの利用を控えた」と回答している。要介護度別に見ると、「通所系サービスの利用を控えた」は要介護度が上がると低くなる傾向にあり、要支援1・2では84.0%だが、要介護3以上では59.6%となっている。

●介護保険サービス利用への新型コロナウイルス感染症の影響があったという回答は2割ある。通所系サービス利用者では、10～24回の頻回の利用の方の約3割が影響を受けている。また、影響を受けて「通所系サービスの利用を控えた」という回答は7割となっている。